令和６年度

豊田市教育国際化推進連絡協議会

専門委員会活動報告集

第３７集

目　　次

Ⅰ　豊田市教育国際化推進連絡協議会について

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会会則・・・・・・・・・・・１～２

・　令和６年度　事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

・　資料１：組織と活動　資料２：ユニットアシスト制
　　資料３：研修ブロックリーダーの活用，成果と課題・・・・４～５

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会役員・・・・・・・・・・・・６

・　豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会委員・・・・・・・７

Ⅱ　令和６年度　専門委員会活動報告

１　調査委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１４

２　帰国出国サポート委員会・・・・・・・・・・・・・・・・１～１０

３　外国人児童生徒等支援委員会・・・・・・・・・・・・・・１～１０

４　国際理解委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～１０

５　研修委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～　６

「豊田市教育国際化推進連絡協議会」会則

第１章　名称及び事務局

第１条　本会は，豊田市教育国際化推進連絡協議会(略して国際協)と称する。

第２条　本会の事務局は，豊田市教育委員会学校教育課に置く。

第２章　　目的及び事業

第３条　本会は，豊田市の教育国際化を推進するため，帰国児童生徒及び外国人児童生徒等の個に応じた特色ある教育活動のあり方及び一般生徒との相互啓発による国際理解教育の推進のあり方について学校と地域との連携により研究実践を行うことを目的とする。

第４条　本会は，前条の目的を達成するために，次の事業を行う。

（１）市内における帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態調査

（２）帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態に応じた受入指導

（３）帰国児童生徒・外国人児童生徒等に対する適応相談

（４）学校間の情報交換と連絡協議，担当者の研修

（５）教育センターへ研究・実践資料の提供

（６）海外に滞在する豊田市から転出した児童生徒に対する学習相談

（７）国際化推進，国際理解教育にかかわる教育課程・指導法の研究

（８）その他目的達成に必要な事項

第３章　会員及び役員

第５条　本会の会員は，豊田市の次の機関，団体の構成員とする。

（１）豊田市教育委員会

（２）各小・中学校及びこども園

（３）高等学校

（４）海外進出している企業及び外国人労働者を雇用している企業

（５）国際交流組織

（６）豊田市役所関係部署

（７）国際理解教育や外国人児童生徒等教育に関わるＮＰＯ法人

第６条　本会に次の役員・理事・専門委員を置く。

（１）会長１名

（２）副会長　２名

（３）理事　若干名

（４）専門委員　若干名

第７条　本会の役員・理事・専門委員の任務は，次の通りとする。

（１）会長は本会を代表し，会務を総括する。

（２）副会長は会長を補佐し，会長に事故あるときは代行する。

（３）理事は，年間事業計画等，重要事項の審議ならびに研究・推進の全体調整・連絡にあたる。

（４）専門委員は本会の事業・研究・実践にあたる。

第８条　役員・理事・専門委員の選出は，次の通りとする。

（1）理事は会員のうちから選出する。
（2）会長・副会長は理事のうちから選出し，理事会で承認を得る。
（3）専門委員長は，理事のうちから選出し，理事会で承認を得る。
（4）専門委員は，会員のうちから選出し，理事会で承認を得る。
第9条　　役員・理事・専門委員の任期は1年とする。但し，再任は妨げない。
第１０条　庶務・会計は，豊田市教育委員会学校教育課の職員とする。
第１１条　本会に顧問を置くことができる。

第4章　会　議
第１２条　本会の会議は，理事会，専門委員会(調査，帰国出国サポート，外国人児童生徒等支援，国際理解，研修）とする。
（1）理事会は，事業計画・事業報告・重要事項等を審議し，会員に報告する。
（2）専門委員会は，必要に応じて開催し，事業の企画・実践・運営・とりまとめにあたる。

第5章　会　計
第１３条　本会の経費は，市費による。

第6章　会則の改正
第１４条　本会則を改正するには，理事会で承認をうける。

附　則
本会則は，昭和６３年7月１日から施行する。
平成　5年　一部改正　外国人子女に関する件
平成１０年　一部改正　帰国子女を帰国児童生徒に，外国人子女を外国人児童生徒に名称変更
平成１１年　一部改正　会員に関する件　（※国際交流協会が参加）
専門委員会に関する件（※外国人児童生徒委員会を追加）
平成１３年　名称改正　豊田市教育国際化推進連絡協議会に名称変更
一部改正　目的および会員に関する件
（※外国人児童生徒教育を含めた目的及び事業に変更）
（※担当者の研修を追加）
平成１４年　略称改正　国際協に略称変更
一部改正　会員に関する件（※副会長を２名に変更 ）
平成１８年　一部改正　会員に関する件（※外国人労働者を雇用している企業を追加）
役員・理事・専門委員の選出に関する件
（※理事の教育委員会議での承認）
会議に関する件（※総会，役員会を廃止）
平成２２年　一部改正　役員・理事・専門委員の選出に関する件
（※理事の教育委員会議での報告）
平成２４年　一部改正　会議に関する件（※専門委員会名称変更）
令和　元年　一部改正　会員及び役員に関する件（※ＮＰＯ法人を追加）
令和　3年　一部改正　外国人児童生徒を外国人児童生徒等に名称変更
令和　5年　一部改正　第４条（６）指導資料の提供を削除（令和６年度より）
第１２条　専門委員会の再編成と名称変更（令和６年度より）
令和　6年　一部改正　会議に関する件（※専門委員会の統合，名称変更）
名称改正　目的および会員に関する件（※指導資料の提供の削除）

令和６年度豊田市教育国際化推進連絡協議会事業計画

＜令和６年度重点取組項目＞

豊田市教育国際化推進連絡協議会専門委員会で実施する「ユニットアシスト制」の活用促進

ア　専門委員会とユニット校，ユニット校同士の連携強化を図るシステムの構築

イ　研修ブロックリーダーを中心としたユニット校へ各専門委員会の取組についての情報提供

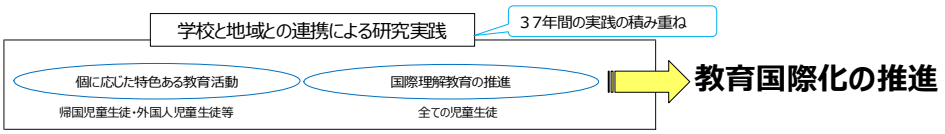
ウ　各専門委員会の活動を生かしたとユニット校での研修等の実施

専門委員会名	事業内容
調査委員会	1　帰国児童生徒・外国人児童生徒等の実態把握 2　帰国児童生徒・外国人児童生徒等の指導上の課題把握 3　国際理解活動実施状況調査 4　専門委員会活動報告集（第３７集）発刊
帰国出国サポート委員会	1　帰国児童生徒等保護者懇談会等の実施 期日：令和6年8月3日（土）午前開催 2　相談窓口の継続 3　相談内容や情報Q&Aのまとめ
外国人児童生徒等支援委員会	1　外国人児童生徒等保護者教育説明会の実施 期日：令和6年7月２０日（土）午前開催 2　各種情報提供用のリーフレット等作成・配布 ※進路指導資料の作成　⇒　進路指導部会との連携
国際理解委員会	1　国際理解教育の推進 ⇒　調査委員会の資料を活用した「国際理解教育」指導案の作成 2　豊田市の国際化の現状把握と外国人児童生徒等への理解の推進
研修委員会	外国人児童生徒等指導者研修会の開催（年３回） ・外国人児童生徒等教育の課題把握 ・日本語指導・教科学習に関するに関する研修 ①　　6月１１日（火）開催　13：30 ②　　8月２０日（火）開催　14：00 ③　１１月２６日（火）開催　14：00

資料１　組織と活動

豊田市教育国際化推進連絡協議会

①国際協　組織と活動
○目的



○組織と活動

会長（教育長）

副会長（校長代表、企業代表）

理事（高等学校長、企業代表、国際交流協会専務理事、NPO法人代表、専門委員会委員長、こども園長代表、国際まちづくり推進課長、保育課長）

専門委員　（校長、教頭、教諭、国際交流協会職員、国際まちづくり推進課員）

保見中	校　長	佐藤　正一
末野原中	教　頭	大屋　久美子
東山小	教　務	岡本　真明
東保見小	教　諭	中島　麻恵
崇化館中	教　諭	小澤　信弥
保見中	教　諭	野入　はる香
大林小	教　諭	小野　高明

東保見小	校　長	小川　敬子
若林東小	教　頭	佐野　恵子
平井小	教　務	森嶌　泰至
末野原中	教　諭	森　博臣
高橋中	教　諭	津上　和馬
東保見小	教　諭	田畑　ユキ
ことばの教室	学校日本語指導員	栗原　友佳
国際まちづくり推進課	主　事	近藤　裕里

西保見小	校　長	小笠原　明恵
美里中	教　頭	近野　義徳
堤小	教　務	浅野　直子
竹村小	教　諭	後藤　真理子
浄水小	教　諭	油井　徳子
国際交流協会	主　任	宇野　智子

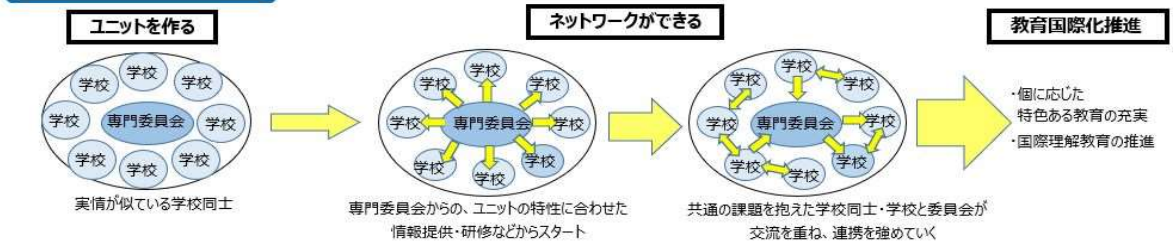
駒場小	校　長	北島　加奈子
高嶺小	教　頭	小川　範人
美山小	校　務	大塚　小百合
市木小	校　務	平岩　紘一
西保見小	教　諭	松本　友美
西保見小	教　諭	山本　奈々

平井小	校　長	尾坂　宏樹
大林小	教　頭	黒田　浩司
朝日小	教　務	孕石　しのぶ
野見小	教　諭	光安　舞

研修委員会	外国人児童生徒等支援委員会	帰国出国サポート委員会	国際理解委員会	調査委員会
外国人児童生徒等指導者研修会実施	**外国人児童生徒等・保護者への情報発信（進路）**	**海外出国・帰国児童生徒に関する相談**	**国際理解教育の推進 豊田市の国際化の現状理解**	**様々な調査・統計実施**
・外国人児童生徒等サポートセンターとの連携 ・ことばの教室との連携 ・指導者のための学習会開催 ・研修運営 （6/11，8/20，11/26）	・説明会（7/20）実施 （進学・就職の方法と試験、学費等について等） ・日本の学校生活についてのリーフレット作成	・懇談会（8/3）実施 （帰国後の入試や在留中の留意点について等） ・出国・帰国Q&Aまとめ	・国際理解教育のための指導案作成 ・国際交流協会との連携推進 ・国際理解教育支援	・海外出国・帰国児童生徒の実態把握 ・外国人児童生徒等の実態把握 ・国際理解教育に関する調査 ・専門委員会活動報告集作成

資料２　ユニットアシスト制

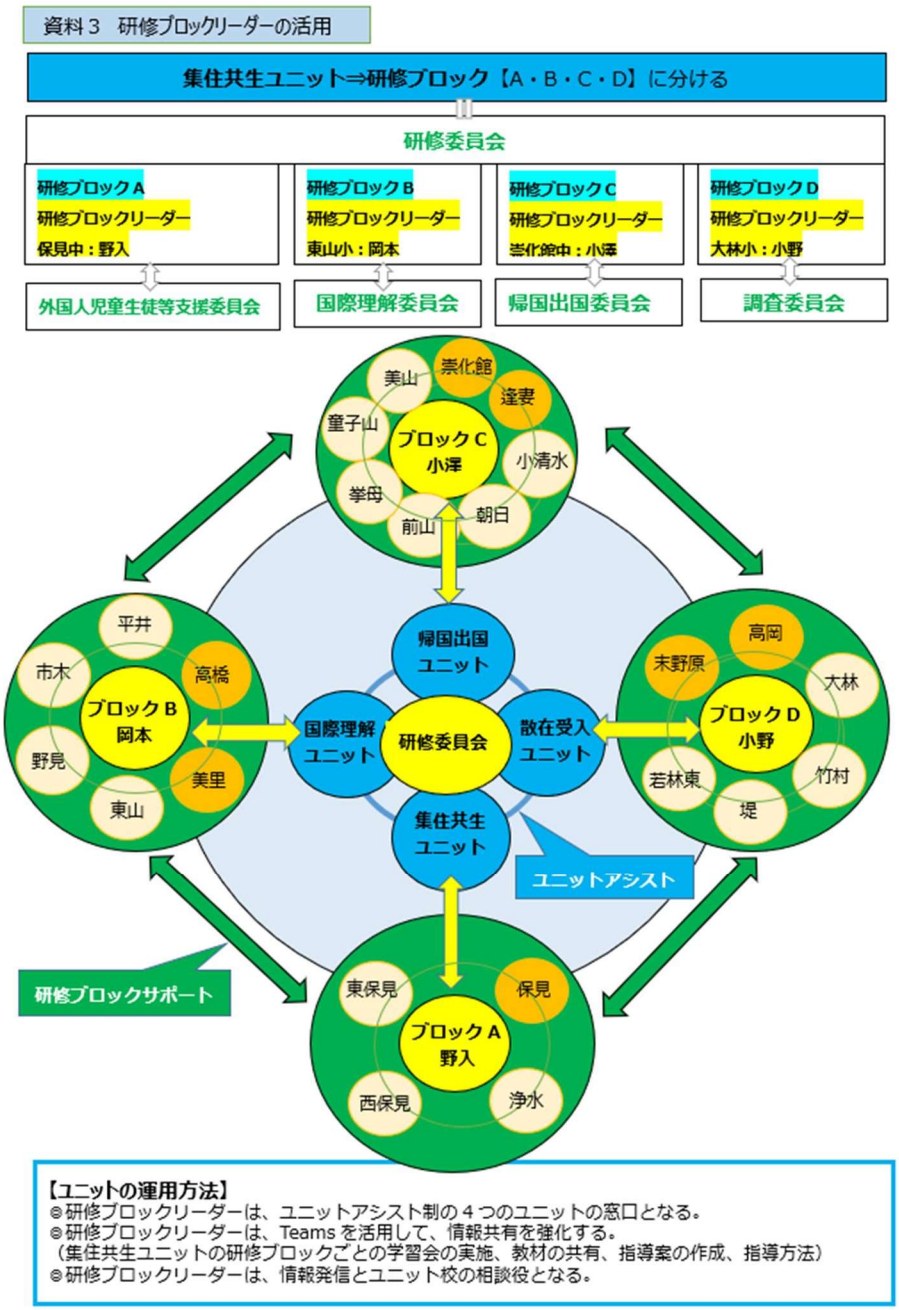
ユニットアシスト制の導入　・・・専門委員会と学校が連携するための基盤を作る



【ユニット案】

加配がある		特別な教育課程を編成している（学校日本語指導員の配置有）			特別の教育課程を編成していない		外国人児童生徒が３人以上		外国人児童生徒が１～２人		外国人児童生徒が0人			Ⅳ 帰国出国ユニット	
Ⅰ 集住共生ユニット		Ⅱ 散在受入ユニット									Ⅲ 国際理解ユニット				
西保見	保見中	山之手	平和	豊南中	敷島	下山中	根川	若園中	西広瀬	石野中	矢並	追分	旭中	童子山	朝日丘中
東保見		寺部	広川台	上郷中	岩倉	益富中	青木	猿投台中	九久平		東広瀬	佐切	稲武中	小清水	逢妻中
浄水	A	古瀬間	石畳	浄水中	稲武	小原中	土橋	猿投中	小原中部		上鷹見	萩野	足助中	山之手	上郷中
東山	美里中	高嶺	飯野	朝日丘中	3校	3校	加納		大沼		幸海	明和		東保見	浄水中
平井	高橋中	寿恵野	四郷	藤岡中			畝部		則定		滝脇	新盛		浄水	高岡中
市木		若園	中山	藤岡南中			5校	3校	中金		豊松	小渡		衣丘	若園中
野見	B	駒場	井上	梅坪台中					花山		五ケ丘東	巴ケ丘		浄水北	
挙母	崇化館中	伊保	梅坪	前林中					浄水北		本城	大蔵		※他のユニットと兼ねる	
美山	逢妻中	元城		竜神中					大畑		足助	御蔵			
朝日		若林西		松平中					五ケ丘		冷田				
童子山		衣丘		井郷中					御作		19校		3校		
小清水		19校		11校					道慈						
前山	C								12校	1校					
大林	末野原中														
若林東	高岡中														
堤															
竹村	D														
17校	7校														

集住共生ユニットを４つのブロック（A・B・C・D）に分ける
⇒グロックごとに研修ブロックリーダーを設定
⇒**研修ブロックリーダーが各ブロックと担当ユニットをサポート　（資料３）**



「ユニットアシスト制」の成果と課題

・令和６年度の重点取組項目を令和４年度に導入した「ユニットアシスト制」の活用促進とし，各専門委員会と学校との連携強化を図った。
・今年度より，「ユニットアシスト制」を見直し，Teams を活用し，専門委員会とユニット校，ユニット校同士が交流できるシステムを構築したことで，情報共有が手軽にできるようになり，必要な情報を必要な時に得られるようになった。
・研修ブロックリーダーを中心に，集住共生ユニットを中学校区ごとに分け，ブロックで研修を実施した。それぞれのブロックの児童生徒の実態に即したテーマについて，研鑽を積むことができた。
・外国にルーツをもつ児童生徒等が増加していることを踏まえ，今後もユニットアシスト制を活用し，各専門委員会と学校が連携し，教育国際化を推進していく。

令和６年度　豊田市教育国際化推進連絡協議会　役員

役職名	氏　　名	職　　名
会長	山本　浩司	豊田市教育委員会　教育長
副会長	羽根田　修	豊田市小中学校長会　会長
	西村　仁志	トヨタ自動車 人事部 総括室長
理事	鈴木　孝文	愛知県立豊田西高等学校長
	杉本　明隆	愛知県立衣台高等学校長
	山崎　秀哲	トヨタツーリスト　海外渡航部 海外子女教育相談カウンセラー
	阪峯　秀明	豊田市国際交流協会専務理事
	前田　晋吾	トヨタ自動車労働組合 労働政策局長
	伊東　浄江	NPO法人　トルシーダ代表
	尾坂　宏樹	豊田市立平井小学校長
	北島　加奈子	豊田市立駒場小学校長
	小笠原　明恵	豊田市立西保見小学校長
	小川　敬子	豊田市立東保見小学校長
	佐藤　正一	豊田市立保見中学校長
	鶴見　泰子	豊田市こども園長会　会長
	谷原　美保	豊田市生涯活躍部　国際まちづくり推進課長
	畔柳　隆二	豊田市こども・若者部　保育課長
事務局	岸本　勝史	豊田市教育委員会　学校教育課長
	渡邉　温嫁	豊田市教育委員会　学校教育課指導主事
	安藤　美穂子	豊田市教育委員会　学校教育課指導主事
	平吹　洋子	外国人児童生徒等サポートセンター　アドバイザー
	森　友里那	豊田市教育委員会　学校教育課主査

令和６年度豊田市教育国際化推進連絡協議会 専門委員会

委　員　会　名		氏　　名	勤　務　先	役　　職	
調査委員会	◎	尾坂　宏樹	平井小	校　　長	
	○	黒田　浩司	大林小	教　　頭	
		孕石　しのぶ	朝日小	教　　務	新
		光安　舞	野見小	教　　諭	
帰国出国サポート委員会	◎	小笠原　明恵	西保見小	校　　長	
	○	近野　義徳	美里中	教　　頭	
		浅野　直子	堤小	教　　務	
		後藤　真理子	竹村小	教　　諭	
		油井　徳子	浄水小	教　　諭	
		宇野　智子	国際交流協会	主　　任	
外国人児童生徒等支援委員会	◎	小川　敬子	東保見小	校　　長	
	○	佐野　恵子	若林東小	教　　頭	新
		森嶌　泰至	平井小	教　　務	
		森　　博臣	末野原中	教　　諭	
		津上　和馬	高橋中	教　　諭	新
		田畑　ユキ	東保見小	教　　諭	
		栗原　友佳	ことばの教室	学校日本語指導員	新
		近藤　裕里	国際まちづくり推進課	主　　事	
国際理解委員会	◎	北島　加奈子	駒場小	校　　長	
	○	小川　範人	高嶺小	教　　頭	
		大塚　小百合	美山小	校　　務	
		平岩　紘一	市木小	校　　務	
		松本　友美	西保見小	教　　諭	
		山本　奈々	西保見小	教　　諭	
研 修 委 員 会	◎	佐藤　正一	保見中	校　　長	
	○	大屋　久美子	末野原中	教　　頭	
		岡本　真明	東山小	教　　務	新
		中島　麻恵	東保見小	教　　諭	
		小澤　信弥	崇化館中	教　　諭	
		野入　はる香	保見中	教　　諭	
		小野　高明	大林小	教　　諭	

◎委員長　〇副委員長

1　調査委員会活動報告

Ⅰ　調査結果の概要

1　過去３年間に帰国した児童生徒の概要

2　豊田市立の小・中学校に在籍している
外国人児童生徒の概要

Ⅱ　豊田市における帰国児童生徒の実態

1　帰国児童生徒数及び在留期間別人数

2　帰国時の学年

3　在留国での就学状況

4　帰国児童生徒の推移

5　地域別・在留国別学年人数

6　中学校区別　帰国児童生徒数

7　帰国児童生徒に関するアンケート結果

Ⅲ　豊田市における外国人児童生徒の実態

1　学年別外国人児童生徒数

2　外国人児童生徒数の変遷

3　外国人生徒の中学校卒業後の進路

4　中学校区別外国人児童生徒の在籍状況

5　外国人児童生徒に関するアンケート結果

Ⅳ　令和６年度　国際理解教育に関する実態調査（結果）

Ⅰ　調査結果の概要

豊田市教育国際化推進連絡協議会の調査委員会では，帰国児童生徒(過去３年間に帰国)と，外国人児童生徒(豊田市立の小中特別支援学校に在籍)を対象に，市内全小中学校と該当児童生徒の保護者の協力を得て，その実態調査を実施している。

2024年度の調査結果は以下のとおりである。

1　過去３年間に帰国した児童生徒の概要(2024年5月1日現在)

（１） 過去３年間に帰国した児童生徒数

	2023年度	2024年度	昨年比
小学校	174	197	23
中学校	85	78	-7
合計	259	275	16

（２） 主な滞在国と児童生徒数

アメリカ	108	中国	54	ベルギー	34	タイ	31	カナダ	14
トルコ	5	インドネシア	5	その他のヨーロッパ	4	メキシコ	3	シンガポール	3
ドイツ	2	ブラジル	2	韓国	2	マレーシア	2	オーストラリア	2

（３） 主な在籍校と児童生徒数

小学校40校 197 人	浄水小	30	山之手小	15	童子山小	14	浄水北小	13
	小清水小	9	衣丘小	9	若園小	6	梅坪小	7
	朝日小	6	寺部小	5	大林小	5	根川小	5
	寿恵野小	4	挙母小	4	東保見小	4	四郷小	4
中学校19校 78 人	浄水中	18	朝日丘中	8	末野原中	7	上郷中	5
	豊南中	5	崇化館中	4	高岡中	4	猿投台中	4
	美里中	3	竜神中	3	若園中	3	逢妻中	3
	猿投中	2	藤岡南中	2	前林中	2	益富中	2

※　浄水中学校区に帰国児童生徒が集中している。

2　豊田市立の小中学校に在籍している外国人児童生徒の概要(2024年5月1日現在)

（１） 外国人児童生徒数

	2023年度	2024年度	昨年比
小学校	896	916	20
中学校	387	435	48
合計	1283	1351	68

（２） 主な出身国と児童生徒数

ブラジル	677	フィリピン	192	中国	158	ペルー	81	ベトナム	80
ネパール	34	モンゴル	31	インドネシア	24	韓国	17	パキスタン	14
ボリビア	9	スリランカ	8	タイ	5	台湾	4	その他	17

（３） 主な在籍校と児童生徒数

小学校54校 （含：豊田特別支援学校小学部）	西保見	128	東保見	101	平井	66	大林	44
	若林東	40	朝日	39	東山	38	挙母	35
	小清水	34	浄水	32	美山	29	堤	25
中学校25校 （含：豊田特別支援学校中学部）	保見	148	高橋	39	崇化館	31	美里	28
	末野原	23	逢妻	21	高岡	21	朝日丘	20
	藤岡	12	豊南	10	竜神	10	浄水	9

※　保見中学校区に集中が見られるが，全市的に多数の外国人児童生徒が在籍している。

Ⅱ　豊田市における帰国児童生徒の実態

（調査対象：2021年4月1日～2024年5月1日までの帰国児童生徒）

1　帰国児童生徒数及び在留期間別人数＜過去３年間に帰国＞

学年	帰国児童生徒数 過去３年間に帰国 2021.4.1～2024.5.1			在留期間別人数							
	男	女	合計	1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5～6年	6～7年	7年以上
小１	12	7	19		5	6	4	4			
小２	13	13	26	3	3	7	8	2	3		
小３	21	16	37	1	3	14	9	7	3		
小４	23	19	42	2	4	16	11	5	3		1
小５	26	15	41	1	4	14	10	9			3
小６	17	15	32		4	11	8	5	4		
計	112	85	197	7	23	68	50	32	13	0	4
中１	21	7	28	1		6	11	3	6	1	
中２	11	15	26		1	11	8	4	2		
中３	10	14	24		1	11	6	2	2	1	1
計	42	36	78	1	2	28	25	9	10	2	1
合計	154	121	275	8	25	96	75	41	23	2	5

2　帰国時の学年

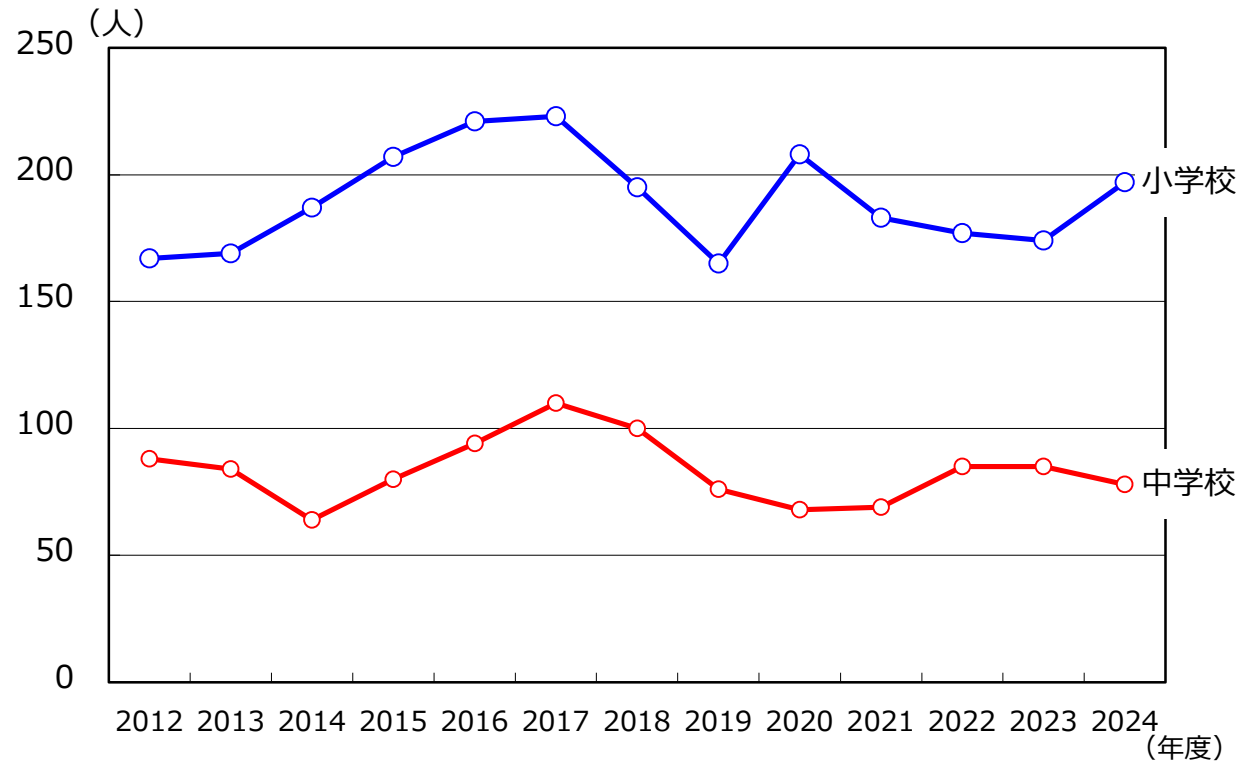
学齢	就学前	小学校						中学校			合計
		１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年	
人数	40	26	54	37	20	37	39	11	7	1	272

3　在留国での就学状況（複数回答）

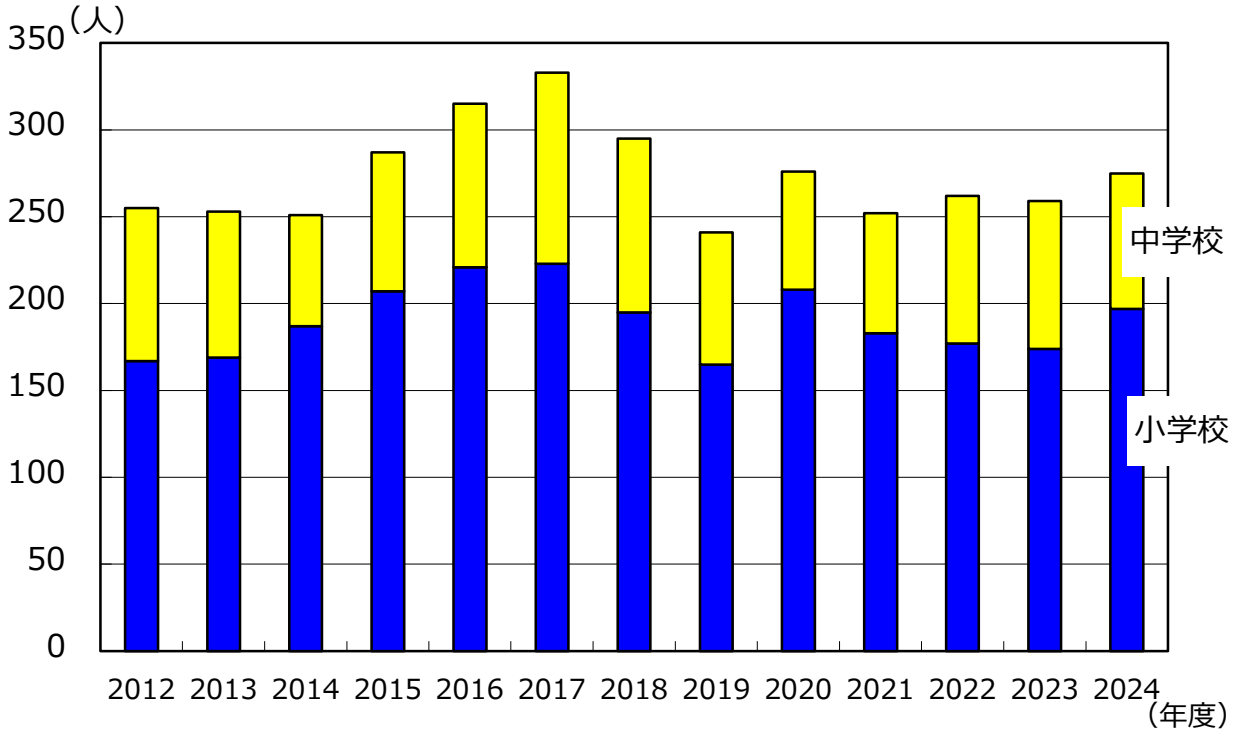
学校種別	日本人学校	現地校	国際学校	補習授業校	通信教育	就学前教育施設	その他
小学校人数	77	100	10	69	5	31	2
中学校人数	40	34	5	27	2	1	0
合計	117	134	15	96	7	32	2

4　帰国児童生徒の推移　＜各年５月１日現在＞

（１）小中学校別帰国児童生徒の推移



（２）帰国児童生徒数の合計と内訳



5　地域別・在留国別学年人数

（1）　アジア

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	中　　国	4	6	6	9	4	10	39	5	6	4	15	54
2	タ　　イ	1	2	5	6	6	2	22	3	3	3	9	31
3	インドネシア	1	1		1			3	2			2	5
4	イ　ン　ド							0				0	0
5	フィリピン			1				1				0	1
6	台　　湾							0				0	0
7	シンガポール		1			1	1	3				0	3
8	マレーシア							0			2	2	2
9	韓　　国							0	1		1	2	2
10	そ　の　他				1	1		2				0	2
	計	6	10	12	17	12	13	70	11	9	10	30	100

（2）　ヨーロッパ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	ベルギー	3	1	3	5	6	6	24	5	2	3	10	34
2	イギリス							0				0	0
3	ド　イ　ツ				1			1	1			1	2
4	チ　ェ　コ							0				0	0
5	フランス							0				0	0
6	スウェーデン							0				0	0
7	ハンガリー							0				0	0
8	ト　ル　コ			1	1	1		3	1	1		2	5
9	そ　の　他				1	2		3		1		1	4
	計	3	1	4	8	9	6	31	7	4	3	14	45

（3）　南北アメリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	アメリカ	9	13	18	13	19	10	82	8	9	9	26	108
2	カ　ナ　ダ	1	2	2	3		2	10	1	3		4	14
3	ブラジル					1		1		1		1	2
4	メキシコ				1			1	1		1	2	3
5	そ　の　他							0				0	0
	計	10	15	20	17	20	12	94	10	13	10	33	127

（4）　アフリカ

No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	南アフリカ共和国						1	1				0	1
2	そ　の　他							0				0	0
	計	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1

（5）　オセアニア

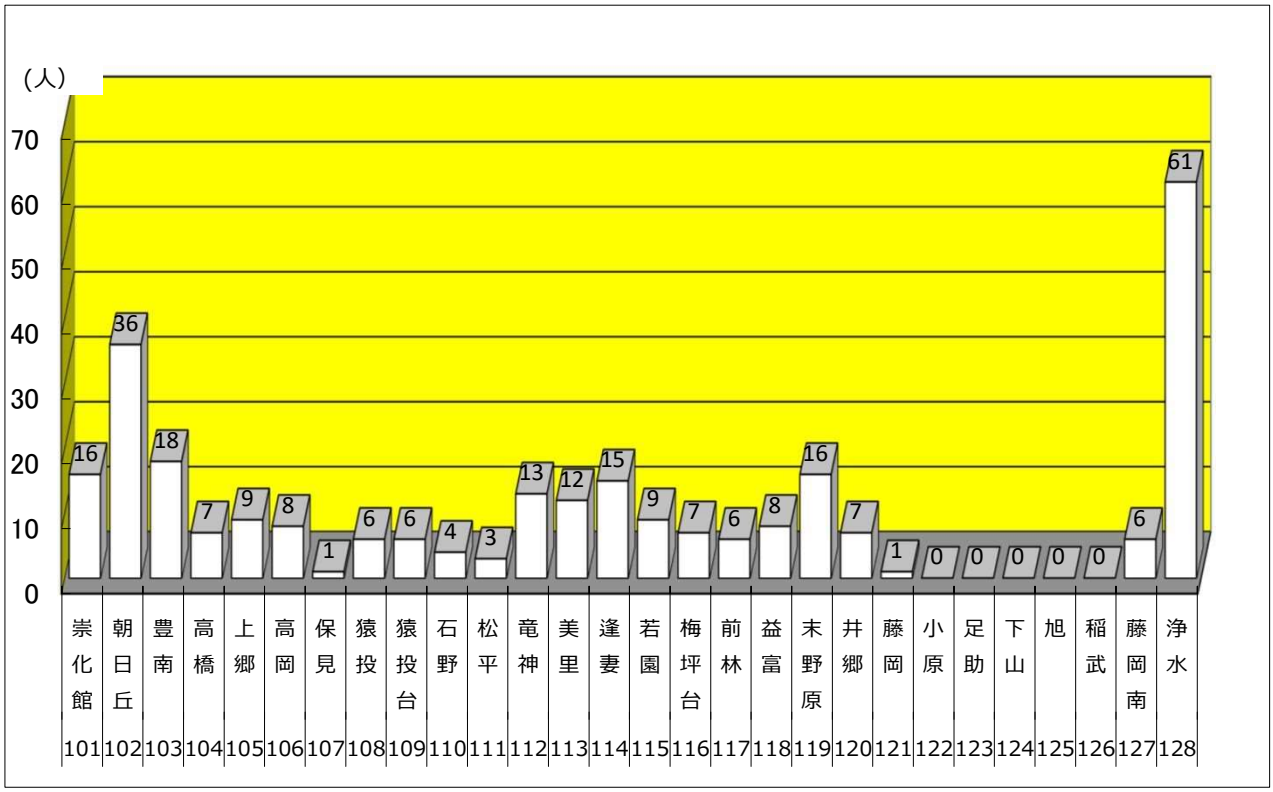
No	在留国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校計
1	オーストラリア			1				1			1	1	2
2	そ　の　他							0				0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	2

合　計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校計	1年	2年	3年	中学校計	小中学校合計
	19	26	37	42	41	32	197	28	26	24	78	275

6　中学校区別　帰国児童生徒数

学校番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114
中学校区	崇化館	朝日丘	豊南	高橋	上郷	高岡	保見	猿投	猿投台	石野	松平	竜神	美里	逢妻
児童生徒数	16	36	18	7	9	8	1	6	6	4	3	13	12	15

学校番号	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
中学校区	若園	梅坪台	前林	益富	末野原	井郷	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	藤岡南	浄水
児童生徒数	9	7	6	8	16	7	1	0	0	0	0	0	6	61



7　帰国児童生徒に関するアンケート結果

（１）学習内容などで困難を感じている教科・内容

【小学校】

帰国後１年目	人	帰国後２年目	人	帰国後３年目	人
・国語（漢字、作文、書写など）	35	・国語（漢字、作文、書写など）	13	・国語（漢字、作文、書写など）	7
・社会	7	・社会	0	・社会	1
・算数（文章題）	4	・算数（文章題）	6	・算数（文章題）	3
・理科	6	・理科	2	・理科	2
・音楽	5	・音楽	1	・音楽	0
・図工	0	・図工	0	・図工	0
・家庭	0	・家庭	0	・家庭	0
・体育	1	・体育	1	・体育	0
・外国語活動、外国語	1	・外国語活動、外国語	0	・外国語活動、外国語	0
・総合的な学習、生活科	0	・総合的な学習、生活科	0	・総合的な学習、生活科	0
・道徳	0	・道徳	0	・道徳	0
・全教科	0	・全教科	0	・全教科	0

【中学校】

帰国後１年目	人	帰国後２年目	人	帰国後３年目	人
・国語(漢字、読解)	5	・国語(漢字、読解)	3	・国語(漢字、読解)	5
・社会(歴史、地理)	6	・社会(歴史、地理)	1	・社会(歴史、地理)	0
・数学	0	・数学	0	・数学	2
・理科	7	・理科	1	・理科	3
・英語	1	・英語	0	・英語	0
・音楽	1	・音楽	1	・音楽	2
・美術	2	・美術	0	・美術	1
・保健体育	2	・保健体育	0	・保健体育	1
・技術･家庭科（裁縫）	5	・技術･家庭科（裁縫）	0	・技術･家庭科（裁縫）	2
・総合的な学習	1	・総合的な学習	0	・総合的な学習	1
・道徳	1	・道徳	0	・道徳	1
・全教科	0	・全教科	1	・全教科	1

（２）学校への要望，意見(指導上配慮してほしいこと)

【小学校】
日本の学校の暗黙の了解や常識を分かっていないので，その都度ゆっくりと教えてほしい。
年度途中の転入で，どちらの学校でもできなかった教科の単元のフォローをしてほしい。
英語の授業が有意義なものになるよう，配慮してほしい。（レベル分けの外国語授業など）
宿題や持ち物管理の声かけなどして，配慮してほしい。
外見は日本人だが，経験や考え方が外国人で日本のことがよく分かっていないので，配慮をしてほしい。
日本の学校や文化に慣れるまで，長い目で見てほしい。
下学年の学習をサポートしてほしい。（国語・漢字や算数の補習などをしてほしい）
書き間違いなどの間違った日本語の訂正やフォローをしてほしい。
技能教科を知らないので，授業中フォローしてほしい。
【中学校】
自分から分からないことを聞けないので，理解しているかを聞いてほしい。
日本の学校生活の常識が分かっていないので，指導してほしい。
過去の学年の学習のサポートをしてほしい。（特に理科と社会）
褒めて伸ばしてほしい。
納得できないことがあれば，話し合いをしてほしい。
学級の人数が多くて，不慣れなので声かけをしてほしい。

（３）生活適応上で困ったこと

【小学校】
英語では伝えられるが，日本語で何というかわからないことがあった
日本語の読解力不足，漢字が読めない
「れる・られる」「かす・かりる」等の区別ができない
海外のバス通学から，徒歩通学への慣れ
日本の文化や風習，マナーを知らない（文化の違いにとまどい）
清掃等，日本の学校文化への適応
リコーダー等への慣れ
海外と比べ，一人での行動が増えて安全面が心配
【中学校】
漢字，読解力，四字熟語等の理解不足
日本の気候への不慣れ
海外のバス通学から，徒歩通学への慣れと体力不足
清掃等，日本の学校文化への適応
維持しようとする外国語を活用する場がない
友人関係の構築

（４）習得した言語等を維持するための工夫

【小学校】
外国語維持の教室（オンライン，英会話教室，TIA等）
外国語検定の受験
外国語映画や番組，音楽の鑑賞や読書（アニメ含）
タブレット学習（キュビナ，その他アプリ）
在留国の友人との交流（ビデオ通話，メールのやりとり）
ALL Englishキャンプへの参加
帰国後も在留国の話や行事，食事の再現等を行う
学校のALTと積極的な会話や，外国語の家庭教師
【中学校】
外国語維持の教室（オンライン，英会話教室，ＴＩＡ等）
外国語検定の受験
外国語映画や動画（YouTube）の鑑賞や読書
在留国の友人との交流（ビデオ通話，メールのやりとり）
家庭での日常会話を外国語で行う
海外子女教育振興財団への通学

（５）海外滞在体験が本人に与えたと思われる事柄

【小学校】プラス的傾向
グローバルな感覚が身についた。（世界を身近に感じる）
多様性を受け入れやすくなった。（外国人に偏見がない等）
日本語以外の言語が習得できた。
現地で仲の良い友達ができ，日本語以外で話ができた。
様々な環境で友達を作ることができるようになった。
視野が広がった。
外国語文化を学べた。興味をもてた。
日本の良さ(文化や環境等)を再確認できた。
社交性(コミュニケーション能力)を身につけられた。
自分のことを大切に考え，気持ちに素直でいられる。
家族を，より大切に思うようになった。
安全面への気配り(外出時の確認等）ができるようになった。
適応力や忍耐力が身についた。
自己肯定感が高くなった。
【小学校】マイナス的傾向
日本語のボキャブラリーの少なさと理解の遅れ。
漢字やかたかなの読み書きが苦手である。
学習の遅れがある。（理科，社会等）
日本語の話し方や文法への習熟の遅れ。
日本語で文章を書くことへの苦手意識がある。
日本の伝統的な文化や遊びを知らない。
文化の違いを感じ，周囲の目を気にしてしまっている。
日本の常識やマナーを忘れてしまっている。
時間感覚や交通ルール等の違いに戸惑っている。
学校文化やシステムの違いに戸惑いがある。
海外では，姿勢やマナーに対する指導がなかった。
感情表現が大きすぎることや，思ったことを遠慮なく口にする。
日本の食事への抵抗がある。ジャンクフードを好むようになった。

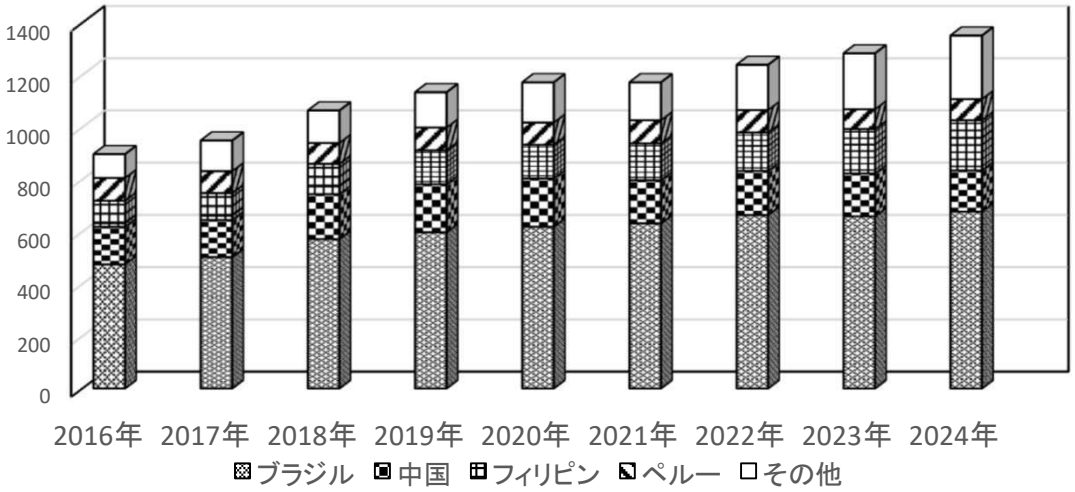
【中学校】プラス的傾向
価値観や文化の違いを当たり前に受け入れられるようになった。
日本を外から見られ，日本の良さを再認識した。
視野が広くなり，世界が近くなった。
他の国のニュースや出来事に興味，関心をもつようになった。
外国人に対して普通に接し，様々な国の友達ができた。
日本にいる友達の良さもあらためて分かった。
外国語に興味をもち，言語の習得ができた。
家族との時間が増えて充実して過ごせた。
個人が尊重され，ほめられることで自己肯定感が育まれた。
人とのコミュニケーションを積極的にとるようになった。
自分の意見をはっきりと伝えられるようになった。
安全に対する意識が高まった。（生活，メディアリテラシー等）
現地校へ行ったことで，帰国後も交流が続いている。
適応力の向上で，自立して行動できるようになった。
【中学校】マイナス的傾向
学習機会がなかった教科等(社会や理科等）の習得不足がある。
学習の遅れがある。
日本語の聞き取りが苦手である。
リコーダーや鍵盤ハーモニカ等にふれる機会がなかった。
目や耳から入ってくる日本語が少なく，知らない日本語が多い。
日本の常識やマナーを忘れてしまっている。
学校のルールが緩く，だらしがない面が増えた。
語尾がきつくなることが多く，強く主張していると思われがちになる。
目上の人に対してもフレンドリーに話してしまう。
治安が悪く外へ行けなかったため，体力の低下や保守的になった。
海外での生活に戻りたいと，現在を楽しめていない。
日本の生活を意識しすぎて，言語習得や交流不足となった。
英語嫌いになった。

Ⅲ　豊田市における外国人児童生徒の実態

1　学年別外国人児童生徒数

校種	小学校						小学	中学校			中学	総合計
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
人数	150	151	147	141	167	160	**916**	146	140	149	**435**	**1351**

2　外国人児童生徒数の変遷　（各年５月１日現在）



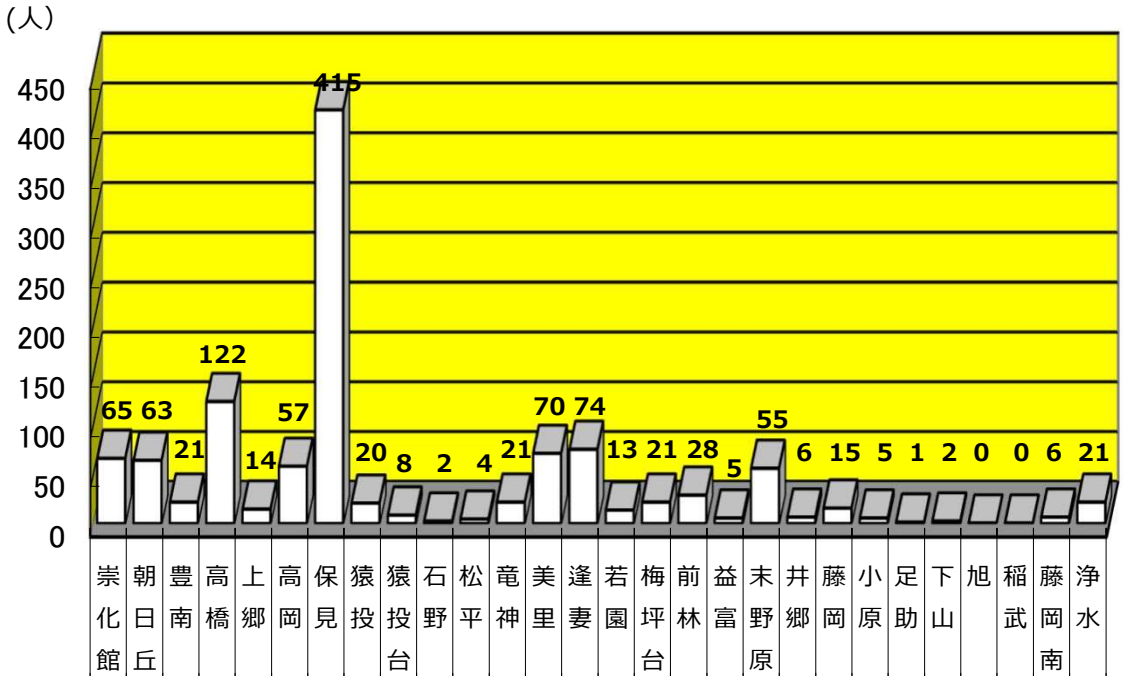
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ブラジル	475	503	572	598	619	632	664	659	677
中国	144	142	172	184	185	165	169	164	158
フィリピン	100	103	116	130	129	141	147	170	192
ペルー	87	84	80	87	85	89	86	76	81
その他	91	117	124	135	154	145	173	214	243
合計	897	949	1064	1134	1172	1172	1239	1283	1351

3　外国人生徒の中学校卒業後の進路

	全日制			定時制	通信制	高専	特支	専修学校	各種学校	職能開発	就職	家事手伝い	帰国	その他	合計
	国立	公立	私立												
人数	0	71	22	3	12	0	1	6	2	0	0	8	3	2	130

4　中学校区別外国人児童生徒の在籍状況

学校番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128
中学校区	崇化館	朝日丘	豊南	高橋	上郷	高岡	保見	猿投	猿投台	石野	松平	竜神	美里	逢妻	若園	梅坪台	前林	益富	末野原	井郷	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武	藤岡南	浄水
児童生徒数	65	63	21	122	14	57	415	20	8	2	4	21	70	74	13	21	28	5	55	6	15	5	1	2	0	0	6	21



5　外国人児童生徒に関するアンケート結果

【小学校】　家に帰ってからの生活で困っていること
宿題をするときに困ることがある。遊んでばかりで，宿題をやらない。
算数と漢字の学習に，ついていくのが大変である。
授業進度や説明が早すぎて，内容が理解できない。
時々，日本語が理解できないため，ストレスを感じている。
学校から帰った後，家で学習用タブレットをずっと見ている。
携帯電話に依存している。
宿泊行事に戸惑いがある。
【小学校】　学校への要望
本人が日本語を話せるようになるまで，よく様子を見てほしい。
子どもの学習について，家庭でどのようにサポートできるかを教えてほしい。
漢字の学習を支援してほしい。授業中も内容が理解できないので支援してほしい。
もう少し，日本語が分かっていないことを理解し，ゆっくり対応してほしい。
学校からの書類が全て日本語で読めない。翻訳してほしい。
日本語で直接話をされても分からないので通訳がほしい。
毎日学校からの連絡をローマ字で書いてほしい。
ひらがなが読めるまで，国語の教科書をローマ字で書いてほしい。
発達障がいがあるので，今のまま支援を続けてほしい。
ハラル給食を提供してほしい。
何か問題に気づいたら，保護者に早く伝えてほしい。
クラスで一人だけの外国人のため，どうしても浮いてしまう。見て見ぬ振りしないようにしてほしい。
【小学校】　日本の学校に入ってよかったこと
日本語が分かるようになった。日本語を話せるようになった。
日本語を学ぶことや学校生活のマナーを身につけることができた。
自立することを学び，一人でいろいろとできるようになった。
今の学校は児童数が少なく，教師が時間をかけてサポートしてくれるため大変良い。
教育の質に対して，学費があまり高くないと思う。
多くの学習活動がある。（水泳，図工，部活動など）
授業以外の活動が楽しい。
漢字の書き方，ひらがな，カタカナの読み方を学び，クラスメイトと楽しく遊んでいます。
規則正しくなった。時間を守るようになった。
きれいで，素敵な学校である。（学校運営，学校環境等）
安全に学校へ通える。通学団で登校できる。
給食が毎日ある。
学校でいろいろなことを学び，良い道徳観を身につけている。
日本の文化と習慣を学べる。
先生の褒め方がとても上手で，親切で優しい。そして応援してくれる。
保護者と児童に敬意を払ってくれる。
日本の友達ができた。

【中学校】　家に帰ってからの生活で困っていること
提出物等の書類を出さない。
家族との会話が成り立たない。（母国語が理解できない）
日本語をあまり話さない。
日本語での会話ができない。
【中学校】　学校への要望
学習について支援してほしい。
先生に何を求められているか分からないので，分かりやすく説明してほしい。（翻訳，通訳含む）
トラブルがあったら，すぐに連絡をしてほしい。
高校受験（入試）についてのことを詳しく教えてほしい。分からないことが多く不安である。
学生証がほしい。
外国人を理解し，ゆっくり対応してほしい。
部活動について分からないので，教えてほしい。
【中学校】　日本の学校に入ってよかったこと
日本語を学ぶことができた。
数か国語を話せるようになった。
日本人の友達を作ることができた。
先生たちが，とても優しい。
多くの学習活動がある。（水泳，図工，部活動，合唱コンクールなど）
日本の習慣や文化を学ぶことができた。和の心を学んだ。
日本で暮らす上での基礎固めができる。
生活習慣を身につけることができた。
母国より，体育の授業や部活動などでの運動量が多い。
先生たちの勉強の教え方がとても良い。
周囲の人たちが助けてくれる。
学級が良い学びの場になっている。

Ⅳ　令和６年度　国際理解教育に関する実態調査（結果）

設問Ⅰ　本年度　実施した(実施予定の)国際理解教育に関する活動内容

（複数回答可）

		小学校	中学校
1	外国人を学校に招待し，ふれあい交流や異文化体験する。	4	3
2	教科・特別活動・学級活動等で，外国について学習する。	７３	２５
3	外国人講師を招き，児童生徒や保護者に講演を行う。	2	1
4	外国人と文通や作品，写真，ビデオなどの交換をする。	3	4
5	外国人とスポーツ交流する。	1	0
6	在校児童生徒以外の外国人児童生徒が，一緒に学習したり，家庭に滞在したりして交流する。	0	1
7	在校外国人児童生徒が食文化や伝統，生活の違いについて紹介したり，スポーツ交流したりする。	8	1
8	在校帰国児童生徒が，食文化や伝統，生活の違いについて紹介する。	4	0
9	自校の外国人児童生徒の保護者が母国の食文化や生活習慣等を紹介し，伝統や文化の違いを学習する。	1	0

<その他>

小学校

・ＡＬＴが作成した異文化紹介映像を視聴する。
・朝の会や掃除の前の時間に，ＡＬＴが外国の異文化を紹介する。
・ＴＩＡについて知り，多国籍の人が住んでいる地域に暮らす自分たちも外国人にできる事はないかを考える学習(TIA スタッフによる講演，総合的な学習)をする。
・地域講師よりインドの子どもたちの話を聞き，インドへ支援物資を送る。
・委員会活動でで，ワールドあいさつ運動を行う。
・ＡＬＴの母国の文化を学び，ゲームなどを通して触れ合う。

中学校

・教科書を通じて，その国について紹介したり，ＡＬＴの国を授業中や掲示板を通して紹介したりする。
・ＴＩＡの方を講師として招き，マイクロアグレッションや，やさしい日本語について学ぶ。
・オイスカの動画を見て，興味のある分野に関して英語でその分野で活躍する日本人を紹介する。
・福祉委員の生徒を中心に，発展途上国に使わなくなった鉛筆を外国へ寄付する。
・ＡＬＴに放送や集会で外国の文化を紹介してもらう。
・豊田市国際まちづくり推進課の事業に参加する。
・自校の外国人保護者に，日本の生活についてのアンケートを取る。

設問Ⅱ　国際理解教育に関する活動の実施形態

		小学校	中学校
1	全校児童生徒が実施	１４	6
2	全校児童を低学年・高学年に分けて実施	0	
3	全校児童を低・中・高学年に分けて実施	4	
4	学年別に実施	４０	8
5	学級別に実施	３３	１６

（複数回答可）

<その他>

小学校

・高学年で実施

中学校

・１年生のみ実施
・希望する生徒

設問Ⅲ・Ⅳ　外国の方との交流　外部機関との連携

学校名	実施日	国名	内容　★外部機関
前山小	11 月	インドネシア ブラジル　中国	ことばの教室を終えた児童と交流する。
平井小	１回目　5月 ２回目　6月	インド フィリピン パプアニューギニア	5 年生が研修生の方と交流する。　★オイスカ
矢並小	２月	フィリピン	ＡＬＴが外国の文化について紹介する。
大林小	４月	インド モンゴル	インドとモンゴルの講師が自国の文化について紹介する。　★ ＴＩＡ
堤小	４月 ５月 ７月		２年音楽で異国の挨拶を歌詞に取り入れて歌う。 ６年家庭科で国ごとの暑さ対策を調べる。 ５年社会で国旗の成り立ちを学ぶ。
中金小	通年		放課後に ALT とスポーツ交流をする。
上鷹見小	11 月	フィリピン インドネシア フィジー	２年生活科の町探検でオイスカを訪問する。職員による自己紹介や出身国の紹介，ダンス交流をする。 ★オイスカ
幸海小	４月	フィリピン	ＡＬＴが出身国の食べ物やスポーツ，文化などを紹介する。
滝脇小	１回目　　9月 ２回目　10 月	中国 ニュージーランド	帰国児童が現地の食べ物を紹介する。 帰国児童と交流する。
豊松小	10 月	フィリピン	国際理解集会を開催し，クイズやダンスを通して理解を深める。
元城小	５月	ドイツ	６年生が国や文化について学ぶ。
四郷小	４月	アメリカ	日本の食文化や学校生活の違いを学ぶ。
浄水小	４月 １月	フィリピン 世界各地	フィリピンの文化を学ぶ。 出身国の素敵な場所を紹介し合う。
土橋小	１回目　10 月 ２回目　12 月	インド	地域講師より話を聞き，映像を視聴する。 支援物資を送る。　★ＩＶＧ
西保見小	10 月 11 月		保見団地や，周辺地域の過去 30 年間に深く関わってこられた地域の方々を講師として，地域の歴史や伝統について学ぶ。　★ ＴＩＡ
五ケ丘東小	４月	ジャマイカ	学校生活や食べ物，文化の違いを学ぶ。
石畳小	10 月～2 月	ペルー	出身地域や食べ物の紹介を聞く。
御作小	９月		修学旅行にて外国の方にインタビューをする。
道慈小	11 月	アメリカ等	修学旅行にて英語で挨拶をして交流する。
本城小	４月	フィリピン	ＡＬＴと自己紹介をし合う。フィリピンの遊びや食文化について学ぶ。
佐切小	９月		修学旅行にて外国の方に話を聞く。
新盛小	４月	フィリピン	現地での食文化や生活習慣について学ぶ。

花山小	４月	フィリピン	現地の食文化や生活習慣，日本との違いを知る。
大沼小	１月	中国	国の特徴，日本との文化の違い，産業の様子などを学ぶ。 ★ＴＩＡ
小渡小	１回目　６月 ２回目　９月 ３回目　12 月	台湾 フランス	手紙やそれぞれの文化に関するものを交換する。来校したフランスの方に日本の文化を紹介したり，一緒に体験したりする。オンラインでそれぞれの国の文化について紹介しあう。
朝日丘中	10 月		実習生に日本人の有名人を紹介する。 ★オイスカ
高橋中	４月	アメリカ	ＡＬＴによる自己紹介でアメリカの食文化や伝統行事等を学ぶ。
保見中	６月	フランス	マイクロアグレッション等について経験談を聞く。 ★ＴＩＡ
猿投台中	７月	アメリカ	アメリカ人留学生の１日体験入学をし，１年生の授業に参加して交流する。
竜神中	８月 ９月 ２月	フィリピン イギリス イギリス	オンライン文化交流 イギリスのダービーシャー校と交流する。 ★国際まちづくり推進課 留学生の受け入れをする。
益富中	２月	イギリス	イギリスのダービーシャー校と交流する。 留学生の受け入れをする。 ★国際まちづくり推進課
美里中	通年	フィリピン	ＡＬＴ専用の校内掲示板のスペースを確保し，季節に合う出身国の情報を掲示する。
藤岡中	11 月	アメリカ	アメリカの高校生と手紙を交換する。 ★加茂ヶ丘高等学校
小原中	１回目　４月 ２回目 10 月	フィリピン インドネシア	自己紹介をする。 道徳で多文化理解を進める。
足助中	１月	イギリス	イギリスのダービーシャー校と交流する。 ★国際まちづくり推進課
旭中	６月	モンゴル	現地に住む方から生活習慣や学校について学ぶ。 ★ＪＩＣＡ
浄水中	７月	フィリピン	フィリピンの保護者にアンケートを実施する。

★オイスカ　公益財団法人オイスカ　中部日本研修センター
★ＴＩＡ　豊田市国際交流協会
★ＪＩＣＡ　独立行政法人国際協力機構
★ＩＶＧ　国際ボランティア団体

2　帰国出国サポート委員会活動報告

Ⅰ　帰国・出国児童生徒保護者懇談会

1　はじめに

2　体験談を聞こう

3　帰国・出国生徒対象の情報を聞こう

4　情報交換会

5　小学生交流会

6　まとめ

Ⅱ　相談窓口の開設

Ⅰ　帰国・出国児童生徒保護者懇談会

1　はじめに

豊田市在住の帰国・出国児童生徒保護者が交流を深め，海外での体験を共有するとともに，進路や学校生活への適応等について情報交換をすることを目的に，８月３日（土）に豊田市国際交流協会（ＴＩＡ）において懇談会を開催した。質問については，事前に集約したものを講師の方へ送付し，講話や懇談の中で回答していただいた。

〈滞在国別参加児童生徒・保護者数（人）〉

滞在国	児童生徒数	保護者数
アメリカ	１４	１６
中国	3	2
カナダ	2	2
フィリピン	2	1
インドネシア	1	1
ブラジル	0	1
計	２２	２３

ブースに分かれての懇談では，保護者の方より，現地での学校生活・勉強方法・帰国後の進路，また，出国先での居住区や文化など様々な角度から幅広い質問が挙がり，活気ある充実した懇談会となった。

本懇談会は，平成２７年度より帰国者だけでなく，出国予定者にも対象を広げ，帰国者と出国予定者の相互の情報交換や交流を大切にしている。今年度は児童生徒２２名，保護者２３名の合計４５名の参加となった。

＜説明を聞く参加者＞

＜ブースでの懇談会のようす＞

2　体験談を聞こう

（１）中学３年生徒の体験談

私は小学校６年生の夏から中学校２年生の年末まで約２年半ドイツのデュッセルドルフという街に住んでいました。デュッセルドルフには大きな日本人コミュニティがあり，日本食スーパーやレストラン，日本人の経営する歯科医院や病院，学習塾がありました。年に一度ライン川沿いで開かれる「Japan Tag」というイベントは，書道や空手，着物などの日本の文化を紹介するドイツ人にも人気のイベントです。とても治安の良い地域だったので，子どもたちだけで電車やバスに乗って出かけることができ，友達と映画館や移動遊園地，クリスマスマーケットを楽しむことができ

ました。
　学校の選択肢は，インターナショナルスクール，日本人学校，そしてドイツの現地校があり，その中で私は，英語を学びたいという理由からインターナショナルスクールを選びました。英語のクラスが 4 つのレベルに分かれており，ある程度理解できるようになるまでは理科，社会の時間は英語の勉強になります。最初は 1 番下のビギナークラスからスタートしましたが，日本でやっていた英検の勉強が役に立ち，すぐに 1 つ上のクラスに上がることができました。英語，ドイツ語の他に第二外国語という扱いでもう 1 カ国選ばなければいけませんでしたが，日本語も選択肢にあったので日本語を選択しました。その他の教科は日本とほとんど同じです。
　勉強については，毎週の単元テストに加えて学期毎に定期テストがあり大変でした。定期テストでいい点数が取れないと，追試があったり，留年する可能性があったりします。テスト内容は記述式の問題が多く，授業内容を理解した上で，英語で文章を書けるようにならないといけません。まずは単語を知らないと何も書けないので，とにかく単語をたくさん覚える努力をしました。加えて，日本に帰る時期が中学 2 年生の冬と決まっていたため，高校受験に向けて日本の勉強もしていました。初めの 1 年間は学校の勉強についていくことに必死だったため，自分のペースで進められるビデオ学習を選びました。2 年目からは，近くの学習塾に通いました。
　勉強は大変でしたが，学校生活は日本と違う部分がたくさんあり楽しかったです。パジャマデーや青い服を着る日など，毎月テーマに沿った服装で登校する日がありました。任意参加なので，高学年になると参加しない人が多かったですが，ハロウィンの時だけはみんな気合いを入れて仮装していたので面白かったです。また，年に数回，生徒会主催のベイクセールがあり，生徒の作ったマフィンやクッキーを買うことができます。服装も自由で，ピアスやネックレスをしてお洒落をしてくる子が多かったです。
　通い始めて 1 か月が経つ頃にはある程度，先生の話していることがわかるようになり,3 ヶ月を過ぎた頃から少しずつ英語が話せるようになってきました。ちょうどそのタイミングで日本人の友達が帰国したため，それからは積極的に日本人以外の友達とコミュニケーションをとることを意識しました。自分の意見をはっきりと伝えることが良いとする文化のため，勢いに圧倒されたこともありましたが，気の合う友達にも出会うことができました。
　日常生活では，日本との違いを感じる場面が多くありました。「道路を横切る」「捨ててある粗大ゴミは自由に持ち帰って良い」など，日本ではびっくりするような光景がドイツでは当たり前です。学校でも，テストの点数が良かった子だけに先生がお菓子をくれました。なんでも公平性を求める日本では考えられない光景でした。逆に，姿勢を正して先生の話を聞くことや，友達に借りたものをきちんと返すといった，私たちにとっては当たり前の行動は，なんて礼儀正しいのかと驚かれました。また，「日曜日はお店が閉まる」「電車のストライキが頻繁に起きる」など，日本では経験した事のない出来事に戸惑いを感じることが多くありました。
　日本だったら簡単にできることが海外では大きなチャレンジになります。でも，そのチャレンジが後に大きな自信につながります。電車を乗り継いだことや釣り銭が間違っていたと伝えられたことなど,「できた！」という喜びは今でも覚えています。
　海外生活を通じて自分が当たり前だと思っていたことがそうではないとい

うことに気がつきました。そして多様性に触れて視野が広がった事は私にとって大きな学びとなりました。
　これからも，周りの価値観を柔軟に受け入れて，時にははっきりと主張し，海外だからとか日本だからとか関係なく，日々の生活を楽しんでいきたいと思います。

（２）保護者の体験談

保護者　小俣　真美子　様

　当時小学校２年生になる娘を連れ私達が北米のミシガン州へ赴任したのは２０１９年春～２０２２年夏までのことでした。希望した借家エリアが駐在員の住んでいる所とは異なっていた為，迷いもありましたがその地域の小学校に連絡を取り，転入の事や英語のレベルの事，ESL 等の質問をしました。すると校長先生から直ぐに返信がありました。外国籍の家庭はゼロだが，英語の先生の手配をして下さること，異文化理解を深める良いきっかけにしたい等，安心させてくれる内容だったので家の契約を進めました。
　娘は現地校に通い，半年は見様見真似で，生活に慣れるのが精一杯でした。通学バスに乗るのも英語ができないため諦めていましたが，担任の先生が同じルートのクラスメイトに話をし，サポートしてくれたので，バスで通うことができました。このように，友達や先生方にいつも見守られながら，新しい事への挑戦の毎日でした。土曜日は補習授業校にて日本の勉強のキャッチアップをしながら，日本語でお友達と話せる喜びを噛みしめていたようです。
　生活も安定し２年目に差し掛かった頃，新型コロナウイルスにより両校はすぐに休校となり，外部との繋がりは無くなりました。生活の見通しが立たず，帰国も考えましたが，出国制限があり難しい現状でした。日本から取り寄せていた通信教育や日本書籍，新学年の教科書は輸出が見合わせになり手に入らず孤独を感じました。しかし，学びを止めたくないという一心で，ネットの無料教材や動画等を用いて日本の単元に沿った学習をしたり，オンラインで書籍を読んだりすることを続けました。その頃の現地校はというと，午前中にオンラインクラスがあり参加していました。それとは別に，担任の先生や英語の先生がプライベートで本読みや会話をする時間を娘のために設けてくれました。家の中で忙しく過ごす娘を見て，少しホッとしたことを覚えています。
　外出を控えてはいましたが，庭先で遊ぶことや散歩することは許されていたため，散歩に出ると今まで関わりのなかった近所の方々と自然と話すようになりました。困っていることにも手を貸してくれ，娘もそれがきっかけで近所の友達と日が暮れるまで庭で遊ぶようになりました。それは，私たち家族にとって大きな支えになったことは間違いありません。
　秋になる頃，現地校は分散登校，補習授業校はオンライン授業から再開しました。半年ほど学校から離れていたことやアジア人ということで心配していましたが，娘の交友関係はとても広がっていきました。いつも一緒にいるグループの友達に休日に誘われ遊ぶことが増え，時には喧嘩の仲裁に入ることもあると担任の先生から聞いてびっくりしました。このお友達とは，帰国した後も時々ビデオ通話などで楽しそうに話し，誕生日にはカードを送り合っています。
　この赴任生活を言葉で表すと「多変化」です。苦労も多かったですが，子ど

ものことを考えゆっくりと向き合う時間ができたことは無駄ではなかったと思います。また寡黙な娘を堂々と成長させてくれた貴重な期間でもありました。

帰国後，現在は中１となり部活動と英語保持＆レベルアップを両立する難しさを感じています。ただ本人が「いつか米国に戻りたい」と口にするので，親としてはモチベーションを上げられるように助言をし，その日が来ても言葉の面では自信をもってもらえるようできる限りのサポートに徹しています。

3　帰国・出国児童生徒対象の情報を聞こう

（１）「これからお子さんとともに外国で生活するみなさんへ
～出国から帰国するまでに気を付けること～」

（株）トヨタツーリストインターナショナル　海外渡航部
海外子女教育相談カウンセラー　山崎 秀哲　様

1　日本人学校・補習授業校の就学状況（2021 年現在）

・日本人学校…全体の約４割の人が通っている。
・補習授業校…全体の約６割の人が通っている。
・アジアでは，約９割が日本人学校に通っている。
・北米では，ほぼ現地校か補習授業校に通っている。

2　海外子女教育の特徴

（１）就学形態の推移
・日本人学校・補習授業校に通っている人数は横ばい。
・英語圏の現地校・インター校に就学する児童生徒は増えている。

（２）就学年齢・就学期間
・低年齢化が進んでいる。
・長期化の傾向がある。

3　出国時の留意点

（１）現地の学校選び
・日本人学校は国内と同等な教育を行い，文科省からの派遣教員が指導。
・私立在外教育施設も日本人学校同等。但し，高等部のみの学校もある。
・現地の学校（公立・私立）は，その国の言語での学習となる。
・インターナショナル校は，ほとんどの授業が英語で行われる。
※日本人学校以外に通う場合，日本の勉強との両立が必要。
・アメリカ赴任の例として
① まずは，学校に連絡
② ESL が充実しているか確認
③ チューター制度等で英語力のサポート

（２）外国語の習得
・２～４歳　残らない　　・４～６歳　ほとんど忘れる
・６～８歳　多少は残る
・９～１３歳　読み書き可，英検準１級を取得する人もいる
・１４歳～　習得までに大変苦労するが習得した後は帰国生受験に生かす

（３）赴任中のスケジュール
①アメリカ在留で高校受験を控えた事例
・チューターから指導を受け，補習授業校で日本の学習に取り組む。

・一時帰国の際には，受験する高校を訪問したり，塾の夏期講習を受講したりする。
・模試（愛知県全県模試等）などにも挑戦して受験に備える。
・公立高校は愛知県教育委員会高等学校教育課ＨＰ，私立高校は愛知県私学協会ＨＰで確認する。

②小学生の場合
・音読や漢字ドリル，計算ドリルなどで学力の維持は必要。
・一時帰国の際に，地元の小学校への体験入学をするとよい。

4　在留中の留意点

（１）日本人学校と現地校・インター校の学習

・日本人学校
　月～金＝日本と同等の学習，宿題　土・日＝休日
・現地校・インター校
　月～金＝現地の学校の学習，宿題
　土＝補習授業校の学習（国語・算数中心）
　日＝午前中を使って社会・理科の学習を進める。

※教科書をしっかり読み込むとよい。

（２）幼児教育の留意点

・小学３年生以上になると母語が形成される。幼児期に１日の生活の中で，日本語に触れる時間，外国語に触れる時間を作り，きちんと使い分けることが必要。
・幼稚園に通っているときは外国語，家庭に戻ったら日本語というように使い分けると，それぞれが理解できるようになる。

5　帰国時の留意点

（１）本帰国後の子どものケア

・子どもの事を理解してもらえるように，現地での生活の様子や学習内容，日本の学校生活習慣に不慣れなことを前提に支援や配慮してほしいことなどをＡ４用紙１枚程度にまとめ，学校に提出するとよい。

（２）高校受験にかかわる帰国のタイミングと高校入学までの選択肢（進路）

・中学３年を卒業あるいは９年生を修了していれば受験の資格がある。
・日本の高校を受験するには，①現地校に在籍したまま受験，②地元の中学校に編入学して受験，③高校１年になった段階で編入学の３パターン。
※中学３年の４月から日本の学校に通えるのが一番よい。
※高校編入学試験を受験する場合，公立や私立で時期や内容が異なるため，確認が必要。

（３）帰国後の英語力（現地語）の保持

・海外子女教育振興財団や塾等が行っている英会話教室などの活用を。
・英語に力を入れている高校や帰国生徒が多い高校に進学する。
・身に付いた英語力を証明するために英検の準一級を目指して挑戦。

6　海外赴任の意義

・家族の在り方を見直すきっかけ（帯同赴任 or 単身赴任）
・子育てに対して再認識
・国際感覚の育成（臆せず関わる，外国語の習得）

（２）「帰国後，公立高校へ進学するには」

愛知県立豊田西高等学校 教頭　嶋田 好克　様

１　帰国後，公立高校に入るには

・２月上旬にある推薦入試または特色入試を受験。
・２月下旬にある一般入試または海外帰国生徒選抜を受験。
・随時受験できる編入学試験を受験。

２　海外帰国生徒選抜

（１）実施時期は，２月下旬。
（２）試験内容は，学力検査３科目（国・数・英）と面接。
※同日実施の一般選抜にも第 1 志望として出願するので実際には社・理を含めた 5 科目受験。
（３）出願資格は，「継続して 2 年以上海外在住かつ帰国後 2 年以内」であること。
（４）実施している公立高校は，三河地区では豊田西，岡崎西，豊橋東の 3 校。
（５）Web 出願
（６）海外日本人学校は，推薦選抜に出願が可能（日本人学校長から志願先の高等学校長へ事前連絡が必要）。海外現地校は推薦選抜への出願は不可。
※海外現地校であっても，帰国し日本の中学校に在籍していれば制限はない。
（７）令和 5 年度の入試から
・一般選抜の学力検査は 1 回（マーク式）のみ。
・一般選抜の面接の実施は学校により判断する。
・特色選抜が始まった。

３　海外在住生徒の編入学

（１）編入学は，随時実施。ただし，編入学を認める時期は 4/1～翌年 1/8。
（２）試験内容は，編入学考査（豊田西高は国・数・英）と面接。
（３）出願資格は，継続して 1 年以上海外在住かつ帰国後 1 年以内。
（４）どの高校でも出願は可能。ただし，高校側に受け入れ可能な人数制限あり。
（５）出願手続きは，県教育委員会及び志願先の高校に相談し必要書類を揃える。
（６）編入学考査は，「その学校の授業についていけるか」を見る。
※科目や出題範囲は各学校が定める。
（７）編入学考査は，1 度につき 1 校のみ受験可能。
※不合格の場合，別の学校に出願。
（８）アドバイス
・日本の中学校の学習内容をしっかりと身に付けておくこと。
・海外でも受けられる通信添削や模擬試験等を活用すること。
・大学受験を考慮して，早い時期に編入すること。

４　最後に

・本校の生徒も学習だけでなく，部活動，行事等に頑張って取り組み，希望の進路に進んでいる。
・受験の見通しを立て，早めに学校，県教育委員会へ相談するとよい。

４　情報交換会

＜豊田西高等学校のブースの様子＞

トヨタツーリストの山崎秀哲様，豊田西高等学校教頭の嶋田好克先生,教務主任の今田祐之先生，豊田市国際交流協会（ＴＩＡ）阪峯秀明専務理事，在外教育施設（日本人学校等）で勤務経験のある鈴木文与志先生と吉田裕哉先生に相談役として参加していただいた。また，体験談をお話いただいた生徒・保護者も加わり，参加者はそれぞれブースに分かれて情報交換を行った。

参加者は複数のブースを回り,積極的に質問する様子が見られた。豊田西高校の先生方には帰国のタイミングや入試制度についての質問が多く寄せられた。その他のブースでは現地の学校選びや学習方法，日常生活や英語学習などについての質問などが寄せられた。

アメリカへ出国予定の参加者が多く,体験談発表者のブースは円座になって懇談する様子が見られ，他の参加者からの質問も参考になる様子であった。

帰国間もない参加者が,体験談をお話いただいた保護者の方へ熱心に質問したり，同じ国へ出国予定の参加者同士や，帰国者と出国予定者の方が話したりする姿も見られ，終了間際まで途切れることなく活発な意見交換が行われた。

会の始めは緊張した様子の参加者も多かったが,情報交換や相談を通して打ち解けた様子が見られ，大変有意義な会となった。

５　小学生交流会

（１）工作・ゲーム・読み聞かせ（折り紙・魚釣り・福笑い・バランスとんぼ・紙芝居）

＜外国で紹介しようかな＞

小学生の部では，子どもたち同士の交流を深めるために,工作とゲームと読み聞かせを行った。工作は，日本の遊びに親しんでもらおうと，折り紙・魚釣り・福笑い・バランスとんぼの４つを行った。読み聞かせは日本らしい紙芝居にした。

折り紙コーナーでは,図案を参考に,子どもたちが好きなものを折っていった。「カメラはどうやって折るの」「くす玉を作ろう」など，思い思いに作りたいものを選んで取り組んでいた。折り方が分からなくなると,「どうやって折ったの？」と尋ね，教え合う姿がみられた。また，折り紙を折りながら，外国に行くことで楽しみなことを話し，前向きな気持ちをつくっていった。

＜大きな魚が作りたいな＞

魚釣りコーナーでは，色画用紙や紙コップを使い，海の生きものを作った。クジラ・マグロ・クラゲなど，豊かな発想で海の生きものを作っていた。色画用紙をつなぎ,大きな魚を作る姿もあった。ひとつ完成すると,「もうひとつ作りたい」といくつも海の生きものを作り，楽しんでいる様子だった。

海の生きものを作り終えると，海に見立てたブルーシートの上に放し,釣りを楽しんだ。釣りの楽しさを実感すると,もっと魚を増やしたいと,海の生きもの作りに戻って,たくさん作る様子が見られた。

初対面でも，積極的に関わって，楽しく遊んでいる様子が見られた。どの子も遊びの中で交流を深め，和気あいあいと楽しく過ごすことができた。

福笑いコーナーでは，おたふくの目・鼻・口・眉毛を作り，学生ボランティアと一緒に，目を閉じて置く役と，「もうちょっと上」などと案内する役に分かれて楽しんでいた。

バランスとんぼコーナーでは，画用紙のトンボに思い思いの色を塗り，バランスよく仕上がるように，慎重に切り抜いていた。先に作った子が，はねを貼る向きや，はねを折る角度を教える姿があった。

＜上手上手あと少し＞

紙芝居コーナーでは，委員が体を動かす内容の紙芝居を準備し，物語の内容に合わせて，子どもたちが楽しそうに体を動かす様子が見られた。物作りだけではなく，物語を聞いたり，体を動かしたりすることでリフレッシュし，５つの遊びを繰り返し楽しんでいた。

物作りでは，自分の作品ができるたびに保護者に見せに行ったり，最後に持ち帰ったりして，満足そうにしていた。

＜何色のとんぼにしようかな＞

＜ウサギはぴょんぴょん＞

（２）感想・意見（参加者アンケート結果より）

【出国を予定している児童】

・バランスとんぼが楽しかったです。外国の本を読むことと，食べ物が楽しみです。（中国・４歳）
・楽しかったです。外国のご飯の味が楽しみです。お菓子が無いかもしれないから心配です。日本に帰って来るとき，おばあちゃんに会えることが楽しみです。日本語がしゃべれなくなるかもしれないから心配です。（インドネシア・４歳）
・魚釣りが楽しかったです。アメリカの公園で遊ぶのが楽しみです。日本に帰って来るとき，友達と離れていたから大丈夫か心配です。（アメリカ・５歳）
・福笑いが楽しかったです。お父さんが先にアメリカに行っているので，会いに行くのが楽しみです。日本語じゃなくなることが心配です。（アメリカ・１年生）
・楽しかったです。外国のお家の広さが楽しみです。外国に行くときに耳が痛くなることが心配です。日本に帰って来るとき，背が高くなっていることが楽しみです。ちゃんと空港に帰って来られるか心配です。（アメリカ・１年生）
・折り紙で色々作って楽しかったです。ご飯の味の辛さや甘さが楽しみです。外国の学校が心配です。日本に帰って来るときは，友達に会えることが楽しみで

す。日本語を覚えているか心配です。（インドネシア・２年生）
・バランスとんぼが難しくて楽しかったです。アメリカの学校が楽しみです。アメリカに行くときも,日本に帰って来るときも,友達としゃべれるか心配です。（アメリカ・２年生）
・久しぶりに折り紙をして楽しかったです。ディズニーワールドに行くことが楽しみです。外国で友達ができるか，ご飯や，物の値段が心配です。日本に帰って来るときに高校受験が心配です。（カナダ・５年生）
・外国のお菓子が楽しみです。日本に帰ってくるとき，家が地震で壊れていないか心配です。（アメリカ・６年生）
・折り紙もできたし，魚釣りが楽しかったです。アメリカで友達ができるか心配です。日本に帰って来るとき，勉強が一気に難しくなりそうで心配です。（アメリカ・６年生）

6　まとめ

（１）感想・意見（参加者アンケートより）

・中学生の現地での生活談が具体的で，子どもたちが未来を想像できてとてもよかったです。
・保護者の方の実体験がとても参考になりました。出国に向けての準備，現地での生活，また前向きになれる楽しいことなどの情報がありがたかったです。
・参加者で出国経験のある方から，出国先での生活，入手困難なものなどの情報が入手でき，参考になりました。
・経験談が非常に有用でした。実際に現地で生活してみないとわからないことが多く，貴重な情報が得られてよかったです。
・グループでの情報交換の場がとても有益でした。各ブースの先生方からのアドバイスがとてもためになりました。
・高校入試の時期・種類・方法などが聞くことができ，有益な会でした。また帰国後，実際にお子さんが受験した際の話を聞くことができ，良い機会でした。
・出国を経験された保護者の方の話が，これから出国する私たちの身近な話でとても参考になりました。
・帰国者同士，同じ経験を通じて悩みを共有でき安心できました。

（２）成果と課題

・参加申込に関し，本年度も昨年同様オンラインを利用した。これにより，参加者が直接申し込むことができ，各学校での集約作業が不要になっている。また，昨年度よりきずなネットを利用し，全家庭通知に切り替えたことで，保護者の手元に確実に情報が届き，昨年度，本年度と多くの家庭に参加していただけた。
・昨年度同様，懇談や情報交換の時間を十分にとり，会を実施した。参加保護者のアンケートにもあるように様々な情報交換ができ有意義な会となった。
・本年度は，帰国・出国ともに滞在国がアメリカ合衆国というケースが非常に多かったため，そこに関しての情報交換は非常に有益であった。年によって出国する国のパーセンテージが異なるため，その都度ニーズに応えていけるかという点については疑問が残る。
・コロナ禍が収束したことにより，本年度，未就学児の参加がかなり増えた。小学生・幼児の部の運営については工夫が必要である。

Ⅱ　相談窓口の開設

出国や帰国に伴う生活の変化等についての不安や悩みを抱える児童生徒，保護者を対象とした相談窓口を，豊田市教育委員会学校教育課と豊田市国際交流協会（TIA），外国人児童生徒等サポートセンターの３か所で開設している。

本年度も，以下のチラシを保護者に配付し周知することで，保護者がより相談しやすくなるようにした。

帰国・出国児童生徒のための相談窓口

お困りのことを相談してください

豊田市教育国際化推進連絡協議会

豊田市教育国際化推進連絡協議会では、帰国・出国される児童生徒・保護者の方への相談窓口を３か所にて開設しています。これは、帰国・出国児童生徒の皆さんの学校生活を楽しく充実したものにするための相談窓口です。どうぞお気軽に御相談ください。

相談窓口および受付時間

【相談窓口１】

○ 豊田市教育委員会学校教育課（事務局）
○ 電話（０５６５）３４－６６６２
○ メールアドレス　gakkou_k@city.toyota.aichi.jp
<受付時間>
月曜日～金曜日　午前８時３０分～午後５時１５分

【相談窓口２】
○ 公益財団法人豊田市国際交流協会（ＴＩＡ）
○ とよたグローバルスクエア（豊田産業文化センター３階）
○ 電話（０５６５）３３－５９３１
○ メールアドレス　tia@hm.aitai.ne.jp
<受付時間>
火曜日～金曜日　午前１０時～正午　午後１時～午後４時

【相談窓口３】
○ 外国人児童生徒等サポートセンター
○ 豊田市立保見中学校内
○ 電話（０９０）６３５５－２５６４
<受付時間>
月曜日～金曜日　午前８時３０分～午後４時３０分

３　外国人児童生徒等支援委員会活動報告

Ⅰ　外国人児童生徒等・保護者教育説明会

１　令和６年度の取組について

２　外国人児童生徒等・保護者教育説明会の概要

３　教育説明会の実際

４　成果と課題

Ⅱ　リーフレット「夢にむかって」の改訂

Ⅰ　外国人児童生徒等・保護者教育説明会

１　令和６年度の取組について

外国人児童生徒とその保護者を対象にした教育説明会は，今年度で２２回目を迎えた。対象を，小学生(5・6年生)から中学生までの幅広い学年の児童生徒及び保護者としていること，また，高校や大学で学ぶ外国人学生の体験談や助言，グループ別相談の時間等を充実させるための工夫を重ねてきたことで,参加者からはたいへん好評を得ている。本年度も翻訳資料に加え，参加者の希望に合わせ６か国語の通訳を依頼し，可能な限り対応できるよう配慮した。

本年度の説明会には208名の参加希望者があった（表１参照）。これは，外国人児童生徒及びその保護者が,様々な悩みを抱えながら日本での生活に適応しようと努力していることの証でもある。本説明会を通して，日本での子育てや中学校卒業後の進路，また勉強方法等に関する情報を分かりやすく提供するとともに，外国人同士が情報を交換し，悩みを打ち明けて相談し合う場になればとも考えている。参加者の多様なニーズに応えられるように，説明会の準備を進めた。

２　外国人児童生徒等・保護者教育説明会の概要

（１）日時　令和６年７月２０日（土）　午前１０時から正午まで
（２）会場　豊田産業文化センター３階　豊田市国際交流協会ラウンジ
（３）参加状況（表1・2参照）

参加者の募集は，ポルトガル語，スペイン語，タガログ語，中国語，英語，ベトナム語， 日本語の７言語の参加申込用紙を準備し，市内全小中学校を通して配付した。６月中旬から参加募集を行い,夏休み直前に再度,各学校を通して参加の確認を行った。

当日の最終的な児童生徒と保護者を合わせた参加者数は,昨年度を大きく上回る114名となり，外国人児童生徒・保護者の日本での進路や就職先等への関心の高さが感じられた。

今年度は,昨年度と比べて,アジア圏の国籍の参加者が増えていることが特徴である。

【表１　参加申込状況】（参考）昨年度申込者：合計143名

	小学校			中学校			合計
国　籍	児童	保護者	計	生徒	保護者	計	人数
ブラジル	17	22	39	26	29	55	94
フィリピン	5	8	13	11	12	23	36
ネパール	3	3	6	4	5	9	15
中　国	1	3	4	4	4	8	12
ペルー	2	3	5	3	4	7	12
ベトナム	4	5	9	0	0	0	9
パキスタン	1	1	2	1	1	2	4
モンゴル	0	1	1	1	1	2	3
インドネシア	1	1	2	0	0	0	2
韓国	1	1	2	0	0	0	2
バングラデシュ	0	0	0	1	1	2	2
アルゼンチン	0	0	0	0	1	1	1
日本	3	3	6	4	6	10	16
合　計	38	51	89	55	64	119	208

【表２ 実際の参加状況】 （参考）昨年度の参加者：合計72名

	小学校			中学校			合計人数	
国籍	児童	保護者	計	生徒	保護者	計		
ブラジル	12	14	26	11	12	23	49	【講師】 衣台高等学校 教頭 中学校進路指導主事 12 名
ペルー	0	1	1	0	1	1	2	【学校日本語指導員】 ポルトガル語４名 スペイン語１名、中国語１名 タガログ語１名、英語１名 ベトナム語１名
中 国	1	1	2	4	4	8	10	
フィリピン	3	5	8	3	3	6	14	
ベトナム	3	4	7	0	0	0	7	
ネパール	2	3	5	1	2	3	8	【体験発表者】 社会人１名（保見中教諭） 大学生２名（ブラジル） 高校生１名（フィリピン）
インドネシア	1	1	2	0	0	0	2	
パキスタン	1	1	2	0	0	0	2	
バングラデシュ	0	0	0	1	1	2	2	【主催者】 支援委員会委員８名 市教委指導主事２名
日本	3	3	6	4	6	10	16	
韓国	1	1	2	0	0	0	2	【参観者】 市内小中学校関係者
合 計	27	34	61	24	29	53	114	

（４）会の流れと内容

◇主催者あいさつ

・豊田市教育国際化推進連絡協議会外国人児童生徒等支援委員長

◇第１部　全体会「外国人児童生徒等教育の現状と進路について」

・中学校の現状について・・・・・・・・・支援委員会委員

・卒業後の進路について・・・・・・・・・支援委員会委員

・高校での外国人生徒の様子について・・衣台高等学校 教頭

・外国人体験発表・・・・・・・・・・・・社会人１名（保見中教諭）
大学生２名（ブラジル）
高校生１名（フィリピン）

◇第２部　グループ別・個別相談会

・衣台高等学校教頭　・中学校進路指導主事

・先輩である大学生，　高校生が助言

３　教育説明会の実際

（１）第１部　全体会　「外国人児童生徒等教育の現状と進路」

全体会では，愛知県立衣台高等学校の教頭，中学校の進路指導主事，外国人児童生徒等支援委員が，外国人児童生徒等教育の現状と進路，企業が求める力や就職の状況についての説明をした。その後，大学や高等学校で学ぶ外国人学生の体験談や助言を得る機会を設けた。会場では日本語での説明や話が理解できない方のために，言語別に１０のグループをつくり，各グループに通訳を配置した。

＜熱心に説明を聞く参加者＞

ア　中学校の現状と卒業後の進路について（外国人児童生徒等支援委員）

参加者が使用する言語に翻訳した資料を使い，中学校卒業後の進路や受験についての説明があった。

＜外国人児童生徒等支援委員 津上教諭・森教諭の説明からの抜粋＞

○中学校の現状について

・中学校３年生は，1年を通して，進路に関する行事がある。年間の予定を知っておくこととよい。

・「目標をもつ」「時間を守る」「提出物や授業課題をやる」を中学校３年生になる前から意識してやっておくとよい。

○中学校卒業後の進路について

・中学校卒業後の進路として，進学と就職があるが，ほとんどが進学する。

・進学先としては，国立・公立・私立高等学校（全日制普通科，全日制専門学科，全日制総合学科，定時制，通信制），専修学校等がある。

○就職について

・令和５年度の中学校卒業者を対象とした求人は，豊田市とみよし市を合わせて数社。運転免許がないので，通勤の条件等で選択肢は非常に少ない。

・県内の高等学校卒業者に対する求人は３万人以上あり，就職希望が1万人程度であることから考えると，求人倍率は３倍程度になる。

・職業安定所には外国人専門の相談員が配置されている。

○進学について

・学ぶ時間帯で全日制，定時制，通信制に分かれている。

・普通科は，５教科を中心に学び，次のステップへの進学を目指す。

・専門学科は，仕事等のために専門的な知識や技能を学び，就職やさらに専門的な学校への進学を目指す。

・進学先の情報は，公式のホームページを見たり，中学校の先生と相談をし

たりするとアドバイスがもらえる。また，夏休みなどを中心に体験入学が行われており，参加するとよい。

○Webでの手続きについて

・最近は体験入学の申込や出願だけでなく，制服などの購入や就学支援金の申請などにも使われるようになっている。

・翻訳アプリなどが使えない場合もあるので注意をする。

○進学に向けて大事なこと

・進学するには試験があるので，勉強を一生懸命しなくてはいけない。特に日本語の学習が大切。

・進学にはお金がかかるので，しっかりお金を貯めておく必要がある。

イ　進学後の費用について

外国人児童生徒等支援委員会で作成したリーフレットを使用して，進学後に必要となる制服等の費用について説明を行った。

＜外国人児童生徒等支援委員 森教諭の説明からの抜粋＞

○高校進学後にかかる費用について

・高等学校，専修学校では，入学金，授業料が必要。

・保護者の収入などの条件により，補助が受けられる制度がある。

・補助については，私立高校，専修学校の場合は，支払った後に返金されるようになっている。

・公立高校は，補助を受けることで，授業料の支払い額が減額される。

・学校の授業で扱う教科書等の費用も多く必要になる。

・奨学金や特待生制度等で補助を受けられる場合もある。

ウ　高校での外国人生徒の様子について

衣台高校における外国人生徒の状況を始め，「外国人生徒等選抜入試」や校内での外国人生徒への支援についての説明があった。

＜衣台高等学校教頭　横井先生の説明からの抜粋＞

○衣台高校では，「外国人生徒等選抜入試」を実施している。受験の条件はあるが，試験科目は国語，数学，英語での基礎的な内容と個人面接。漢字にはルビがある。「外国人生徒等選抜入試」と「一般入試」が別日で実施される。

○外国人生徒への支援は，「外国人生徒教育支援員の配置」と「取り出し授業」を行っている。

○約６０人の外国人生徒に取り出し授業を行っている。

○「外国人生徒教育支援員」は，ポルトガル語，中国語，タガログ語，スペイン語の支援員が週 1～2 日配置されている。取り出し授業での学習支援や放課後の日本語学習のほか，保護者対応や生徒の精神的なサポートを行っている。

○そのほかに，週 1 回の衣台放課後日本語教室や入学時の日本語テスト，進学や就職に関する保護者説明会を行っている。

○SSW（スクールソーシャルワーカー）が在籍し，生活保護などの相談，奨学金や教育ローンの手配などの相談などを行っている。
○高校入学のためのお金について，授業料は軽減される場合もあるが，入学金や諸経費等必要なお金はあるため，早くからの準備が必要である。

エ　外国人体験発表について

保見中学校で教員として勤める藤井ルーカスユウキさんを講師に招き，来日から現在に至るまでの自身の体験発表を行った。

＜保見中学校　藤井ルーカスユウキさんの体験発表からの抜粋＞

○学校で困ったことについて
・分からない日本語が多く，周りからの目も気になった。
→毎日学校に行って，宿題も欠かさずに出した。
すると，友人ができて会話をたくさんするようになり，日本語の習得につながった。

○勉強について
・毎日書き取りの宿題を頑張った。
・毎日５～10分程度読書を欠かさずに行った。
・分からないことは，必ず調べるようにした。

○将来について
・得意な砲丸投げで，高校受験を乗り越えた。
・大学受験では，砲丸投げの実力が認められ，将来につながる大学に行くことができた。
→自分から動くことが大切。
勉強ももちろんだが，頑張れることを見つけることも重要。周りの人からのサポートも大事。

＜体験発表をする藤井さん＞

オ　外国人生徒等へのインタビュー

公立中学校に勤めている方１名，公立高校で学んでいる方１名，私立大学で学んでいる方２名に，インタビュー形式でこれまでの学びや後輩に伝えたいこと等について話をしていただいた。

＜外国人体験発表者の発表から抜粋＞

Q：学校でどんなことに困りましたか。

○Ａさん（ブラジル国籍／公立中学校に勤務）

言葉の壁もあり，友人を作ることが難しかった。日本語が分からず，自分から行動することができないことが辛かったです。

○Ｂさん（ブラジル国籍／公立高校に在学中）

日本人と日本語で会話をすることが難しかったです。しかし，先生や友人と会話をするこ

＜体験発表者の話を聞く参加者＞

とで日本語が少しずつ分かるようになりました。

○Cさん（フィリピン国籍／私立大学に在学中）

漢字の学習が難しかったです。勉強も得意ではなかったので，まずは日本人の友人を作って日本語を教えてもらいました。

○Dさん（ブラジルとペルーにルーツをもつ/私立大学に在学中）

分からない日本語が多く，授業についていくことが難しかったです。分からないことがあったときには，先生や友人に質問をして，それをメモするようにしました。

＜質問に答えるAさん＞

Q: 中学校３年生のときに，どのような勉強をしましたか。

○Cさん

学校の先生から，高校に進学をしたいのであれば，まずは漢字の学習をすることが重要だと教えていただいた。今でも，漢字の学習を続けている。数学の学習もかなり行いました。

＜質問に答えるBさん＞

Q: 会の参加者に，アドバイスやメッセージをお願いします。

○Aさん

自分をサポートしてくれる人を大事にしてください。分からないことがあるのは当たり前です。だから学校に行っています。そこで先生から教えてもらったことをしっかり聞いて，テストの点数につなげてください。

＜質問に答えるCさん＞

○Bさん

頑張ることが一番大切です。テストでよい点数をとることや，日本語だけではなく英語などの言語をたくさん話すなど，どんなことでも頑張ることが大切です。

○Cさん

テストでよい点数をとることも大切だが，日本人の友人を作って分からないことを聞くことが大切だと思います。日本語が分からない人もたくさんいるとは思いますが，日本人の友人を作ってたくさん会話をしてください。

＜質問に答えるDさん＞

○Dさん

大切なことは，夢をあきらめないことです。不安なこともあると思いますが，その夢に向けて勉強したり，親とコミュニケーションをとったりすることが大事だと思います。サポートしてもらうことが大切です。

（２）第２部　グループ別・個別相談会

言語や小中学校の別，相談しやすい人数を考慮して，10グループを編成した。各グループには，進路指導主事と通訳を配置した。さらに，大学生や高等学校に通う外国人の４名もグループに加わったり,個別相談ができるように個別対応の進路指導主事を配置したりして，参加者からの質問に答えた。

◇**主な相談内容**　　※（　　）は講師の回答の概要

【学校選びについて】

・高校はどこを考えればいいか。（将来の目標による。資格の取得を目指す学校や，さらに上の学校へ進学を目指す学校などがある）

・今の成績でどこの学校に行けるのか。（入れる学校ではなく，入学してからその学校で何をどう頑張って，その先をどうするのかを考えて，お子さんに最適な学校を選択してもらいたい。体験を話していた高校生のように，まずはどんな夢や目標をもって進学したいのかを考える。）

・公立と私立の違いは。（授業料，設備，学べること）

・英語を勉強したい。（聖カピタニオ女子高等学校や安城学園高等学校では，英語コースがある。光ヶ丘女子高等学校には，国際教養科がある。しかし，それなりの学力（日本語を含む）も必要になる。）

・デザインの勉強ができる学校は。（公立ならば瀬戸北総合や豊田東等の総合学科や，瀬戸工科工芸デザイン科がある。専門的になると名古屋地区の専修学校もある。）

・公立で専門的に学べる学校はあるか。（豊田市内なら豊田工科，猿投農林，松平のライフコーディネート科，豊田東の総合学科等がある。）

・スポーツが得意なので，その力を活かして高校に入学できたり，授業料の補助を受けたりできないか。（スポーツ推薦等の制度があるが，私立高校で実施。しかし，学力も必要で高校ごとに条件があったり，高校側から声をかけたりするといった制度がある。）

・１，２年生でも高校に行って話を聞くことはできるか。（中学校の先生を通して日程を調整すれば受け入れ可。）

・女子校について聞きたい。（光ヶ丘，聖カピタニオなどがある。）

・衣台，豊田工業以外で外国人の子たちが行きやすそうな学校はあるか。（今年度より，知立にも外国人等選抜が設置された。その他にも，学び直しの授業を実施してくれる高校もある。）

・豊田東高校の総合学科について知りたい。（１０以上のプランから１つ選び，学習する。詳しくは，各中学校の進路指導主事に聞くとよい。）

・高専について教えて欲しい。（産業に関わる知識・技能の育成を行うための５年制の学校。５年後は，就職や，大学３年次に編入，高専の専門課程に進む。専門課程は４年制大学卒業と同等となる。）

【入試について】

・受験できる組合せ。（公立高校のＡ・Ｂグループの組合せや，私立高校や専修学校との併願受験ができる。）

・推薦はどういった基準でもらえるか。どうやって推薦をもらうのか。（その学校を卒業できる学力があること，学校の諸活動に積極的であることは必要。推薦生徒については中学校の推薦委員会で検討される。）

・特別支援学級生徒で私立高校の推薦がもらえるか。（担任の先生に相談を

するが，学力も必要なので，交流授業を増やすなどが必要。）
・公立一般選抜でルビつきで受験できないか。（できない。外国人選抜のみで実施。定時制等では条件を満たせば,ルビつきで受験できる場合がある。）
・公立高校の学力検査は同じ問題か。(県内全日制の学校はどの高校も同じ問題を使う。)
・公立高校は国籍によって合格の可能性が変わるのか。（国籍でなく個々の力で判断。ただ,試験が日本語なので,難しいところがあるかもしれない。）
・公立受験に全て失敗したら高校に行けないのか。（定員に達していなければ二次募集があることもある。3月末まで出願可能な通信制高校もある。）
・高専を第２希望，公立を第１希望にできるか。（公立高校の合格発表よりも前に，高専の入学意志を決めたという書類を高専に出すので，公立高校が第１であれば，高専の合格を辞退することになる。）

【お金について】
・大学に入っても奨学金や補助金があるか。（日本学生支援機構などがある。奨学金についてまとめたホームページもある。）

【高校での学習や進路について】
・公立高校を途中で辞めて，違う学校に編入できるか。（通信制等であれば可能な学校はある。全日制はほぼ無い。）
・外国人生徒等選抜は３教科（国数英）だが，進学後のテストも同様か。（公立の一般選抜は５教科実施。定期テストは５教科ある。）
・大学に進学することができるか。（大学の受験資格は高校や専修学校卒業だけでなく，一部の各種学校の卒業でも認められる場合もある。）

【小中学校での学習について】
・中学校では，みんな塾に行っているのか。（学校外のことなので，正確な人数は分からない。しかし，全員が塾に通っているわけではない。）
・学習塾には行った方がよいか。（まずは日本語の勉強をしっかりした方がよい。日本語を理解できないと，高校での学習に支障が出る。）
・日本語に不安があるので，ことばの教室に通わせたいが，誰に相談すればよいか。（今の在籍校に相談，ＴＩＡも相談にのってくれる。）
・中学１年からやっておいた方がいいことはあるのか。（学習に力を入れる，進学希望ならお金を計画的に貯める，将来どのような仕事をしたいか目標をもつ。）
・中学校の入学手続きはどうすればよいか。学区外の学校に行けるのか（基本的には学区外には進学できない。指定通知書がはがきで届く。）
・中学校では必ず部活動に入らなければいけないのか。（今は希望制の学校がほとんど。）

＜熱心に話を聞く参加者＞

【就職や将来のこと】
・警察官になりたいが，日本国籍が必要か（日本国籍が必要。）

４　成果と課題

（１）活動の成果について

本年度は１１４名の外国人児童生徒・保護者の方の参加があり，興味・関心の高さと期待感を感じた。昨年度，駐車場の混雑のために開始時刻が遅れてしまったという反省に基づいて，本年度は関係者の駐車場を別に設定したことにより，参加人数が大幅に増えた割にはスムーズに会を開始することができた。

第１部の全体会では進路に関する説明を熱心に聞く姿が見られ，将来の生活を考える上での情報を求めている様子が感じられた。進学先となる高校生活の様子や学費などについても興味・関心が高かったように思われる。その中でも，特に関心が高かったのが，参加生徒の先輩にあたる外国人で教員になった先生の体験談である。夢や目標をもつことの大切さや学力を伸ばすことに尽力した経験等は，参加者にとって説得力があり，将来を考える上で大変参考になったようである。

第２部のグループ別相談会では，様々な角度から自由に話をしたり，質問をしたりすることができた。全体会で聞いた内容を更に詳しく尋ねたり，日頃感じている疑問などを熱心に質問したりしている様子が見られた。また，高校生ボランティアが実際の高校生活について質問に応える場面もあり，参加者からは大変好評であった。

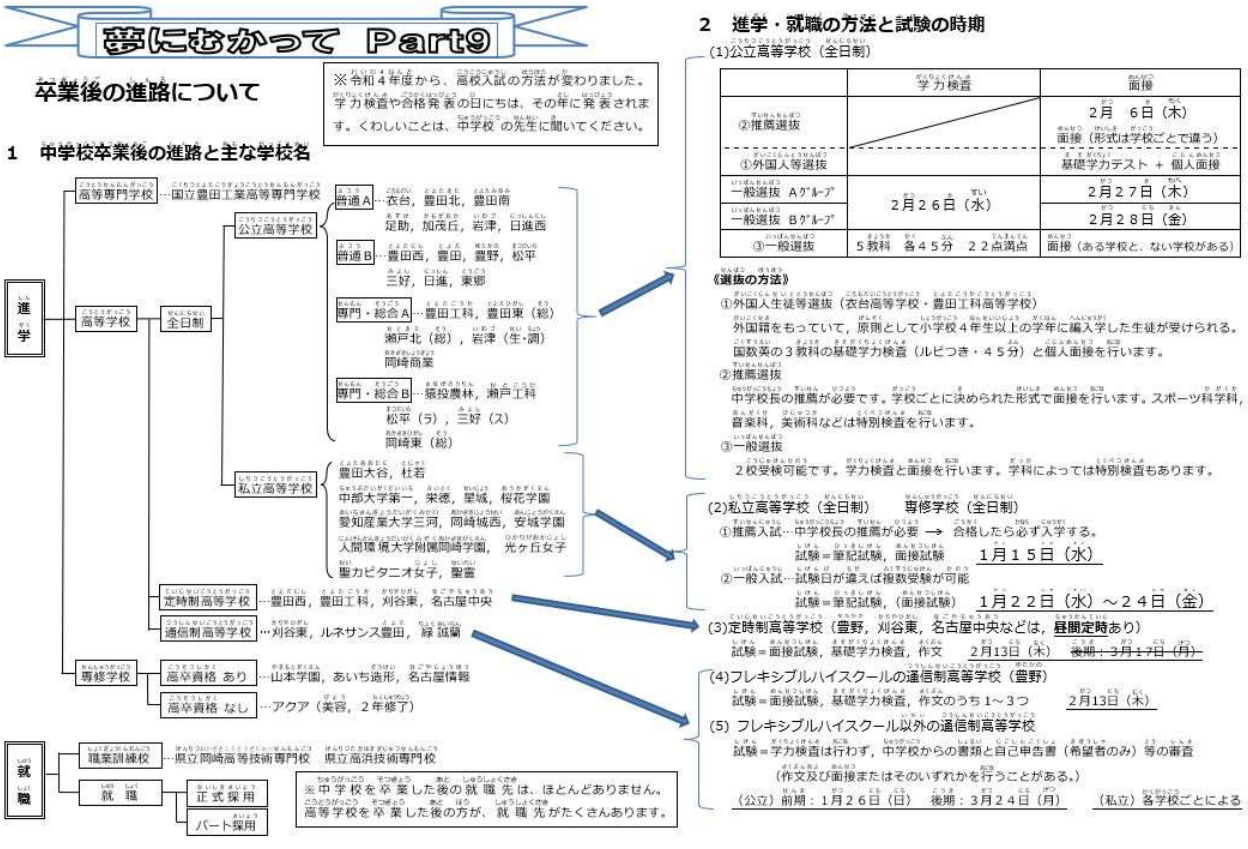
（２）検討課題について

本年度は，参加者が多かったこともあり，第２部のグループ別懇談会の１グループの人数がかなり多くなってしまった。そのため，個々が質問をする時間を十分に確保することができなかった。参加者が直接質問することができるこのような機会は少ないことを考えると，第２部を充実させることが参加者のニーズにも沿っていると考える。しかし，１グループの人数を減らすためには，進路指導主事や通訳，高校生ボランティアの増員が必要となる。この点が今後の課題となる。また，第１部では，大学生や高校生へのインタビューの時間が十分にとれなかったことなど，時間配分についても検討が必要である。参加者にとってより満足できる会になるよう，内容や時間配分について検討していきたい。

Ⅱ　リーフレット「夢にむかって」の改訂

今年度，これまで作成してきた外国人児童生徒等のためのリーフレット「夢にむかって」を見直し，変更のあった点や連絡先を調べ直し，改訂版を作成した。学校行事の見直しによる変更点や外国人児童生徒等保護者のための支援が受けられる愛教大リソースルームなどは二次元コードを掲載し使いやすくした。まだ，完成していないリーフレットもあるが，今後，外国人児童生徒等保護者への情報提供の一助となれば幸いである。

また，「～夢にむかって～インタビュー」は，豊田市で育った先輩の体験に基づいた説得力のあるもので，応援メッセージにもなっている。外国人児童生徒等に一読してもらえたらと願っている。



４　国際理解委員会活動報告

Ⅰ　活動の概要

１　はじめに

２　令和６年度の取組

【資料１・２】４年生　社会科学習指導案

【資料３・４】国際交流に取り組む豊田市

【資料５】　　５分でできる国際理解教育「やさしい日本語」

Ⅱ　教材・資料の活用のために

Ⅰ　活動の概要

１　はじめに

国際理解委員会では豊田市の国際理解教育の振興を目指して研究を進めてきた。これまで学校で国際理解教育を進める場合，

① 外国の方などを招いて，共に集会やゲームなどの活動を進める「異文化交流活動」
② 外国の料理を作ったり，民族楽器や民族衣装に触れたりする「異文化体験活動」
③ 児童生徒が総合的な学習の時間や社会科の時間等に，インターネットや図書資料などで外国や異文化について学ぶ「調べ学習」

などの実践が多く，この国際理解委員会の活動報告でも様々な交流活動の紹介がされてきた。子どもたちが直接交流をしたり，異文化に触れたりすることはとても意味があるものである。一方で，これらの活動は外部団体との調整や準備などに時間を要する場合がある。そこで，国際理解委員会では，昨年度から「どの学校でも，どの先生でも気軽にできる国際理解教育」をめざし，研究や実践を積み重ねてきた。

昨年度は「授業の５分の隙間時間を使って実践できる教材」と「５分でできる現職教育資料」を作り，今年度も授業ですぐに使える教材や資料作りを行った。

２　令和６年度の取組

今年度は，国際理解教育を社会科で行える学習指導案や指導資料の作成，教員の現職教育や小学校高学年以上の児童生徒を対象にした５分でできるパワーポイント資料の作成を行った。

（１）４年生社会科で使える学習指導案（資料１・２）

４年生が使う社会科副読本「豊田」では，第１章は愛知県全体を第２章から第４章で豊田市のことについて学び，第５章で県内の他地域の学習を行う。第５章では外国人の多い豊橋市を例に挙げ，多文化共生社会をめざす豊橋市の取組を学ぶが，豊田市のことは触れていない。豊橋市の取組を理解した後「では豊田市はどうなのだろうか？」と投げかけることで，自然に豊田市の外国人の様子や共生するための取組に興味がもてるのではないかと考え，社会科の学習指導案を作成した。

（２）４年生社会科・中学校社会科公民分野で使える資料（資料３・４）

（１）で述べた４年生社会科の授業だけでなく，中学校社会科公民分野１章２節の「私たちの生活と文化」「多文化共生を目指して」「多文化共生の実現のために」の授業時に私たちが住む豊田市ではどのような取組をしているか追究することができる参考資料を作成した。資料は副読本「豊田」で説明されている豊橋市の様子と同じ分野で構成し，豊田市と豊橋市とで比較できるようした。

（３）５分でできる国際理解教育パワーポイント資料（資料５）

今年度は「国際理解教育とは何か」を分かりやすく説明したパワーポイント資料を作成した。外国人児童生徒等の気持ちを考えることから国際理解を深めていくこと，やさしい日本語を使うようにしようという内容だが，教員だけではなく，児童生徒にも分かりやすいようにクイズなども交えながら説明するように工夫した。

資料１

４年生　社会科学習指導案

１　単元名

国際交流に取り組むまち　豊橋市（本時　7/６）※正規の時程外です

２　本時の目標

前時まで学習した豊橋市の取組をもとに，豊田市においても多くの外国人が住んでいること，国際交流活動の展開や，共生社会実現のための取組について理解することができる。

３　学習過程

時間	学　習　活　動	教　師　の　支　援
導入 5 2	1　前時までに学習した豊橋市の外国人住民状況や，国際交流についてふりかえる。 2　本時の目標を知る。	・本時の目標につなげられるように，豊橋市の様子を振り返った後で「わたしたちの住む豊田市ではどうだと思う」と児童になげかける。
	豊田市に住む外国人について調べよう	
展開 １５	3　豊田市における外国人住民に関する資料を提示して，分かったことをまとめる。 ・豊田市はたくさんの外国人が住んでいる。 ・ブラジル人が一番多いけれど，豊橋市よりは少ないね。豊田市はベトナム人が多いな。 ・豊田市も多くの外国の町と交流している。	・豊田市と豊橋市の比較ができるように，外国人の数を表したグラフや，外国人児童生徒の校種別表，国際交流を示す地図など，副読本と同じ表題の資料を副読本と同じような配置にして準備する。
8	4　資料から分かったことをグループで発表する。 ・豊田市の外国人の数は一度減った後，ずっと増えているね。 ・一緒にごみ拾いや夏祭りなどしている。 ・豊田市はアメリカやイギリスの町と姉妹都市なんだね。	・「〇〇の資料から××が分かりました」と発表できるように，根拠になる資料名と分かったことが書ける発表用シートを用意する。
まとめ １０	5　グループで発表し，全体でまとめる。 ・豊田市にはたくさんの外国人が住み，小中学校にもいる。	・数値が示す内容を理解するために，豊田市の 20 人に 1 人は外国人だとか，学校によっては半数近くが外国人というところもあるなど，説明を加える。
振返 5	6　本時のふりかえり	

４　評価

豊田市の外国人住民の実態や，国際交流，外国人への支援について，資料を通して理解することができたか。

※「小４・６社会科　中３公民で使える豊田市の国際交流資料①」を使用

資料２

４年生　社会科学習指導案

１　単元名

国際交流に取り組むまち　豊橋市（本時　8/6）※正規の時程外です

２　本時の目標

豊田市に住む外国人が困っていることや不安に感じることを考え，その解決のために市役所や豊田市国際交流協会（TIA）がどのような活動をしているか調べ，理解する。

３　学習過程

時間	学　習　活　動	教　師　の　支　援
導入 2	1　前時をふりかえり，豊田市に多くの外国人が住んでいることを確認する。	・豊田市に外国人が多く住んでいることを確認するため，前時の資料を掲示する。
１５	2　自分が外国に住んだら，どのようなことに困ったり，不安に感じたりするか考え，発表する。 ・言葉が通じないのは不安だな。 ・授業が分からないと思う。 ・友達ができるか，いじめられないか不安	・外国人の悩みを理解するために，自分が外国に住んだ場合のことを考えることで，不安や困り感を身近に感じられるようにする。 ・実際の外国人の意識を知るために，発表後，豊田市調査アンケート「あなたの悩みや将来の不安はどのようなことですか」を紹介する。
展開 1	3　本時の目標を知る。 豊田市が行っている外国人への支援や国際交流について調べよう	
5	4　豊田市は外国人に対してどのような支援をしているか予想する。 ・通訳さんがたくさんいるんじゃないかな。 ・交流できる機会があるのではないかな。	・予想しにくい児童には豊橋市の取組（市役所の活動やHPの情報など）を例にして，予想する。
１５	5　豊田市やＴＩＡの資料から分かったことをまとめ，発表する。 ・外国語の看板やホームページなど，外国の人が困らないようになっている。 ・市役所やTIAなど相談できる場所があって便利だと思う。 ・外国人の子が日本語を学ぶ教室がある。	・豊橋市での学習を生かし，豊田市の活動とも比較ができるように，支援活動の内容や交流の写真など，副読本と同じ表題の資料を準備する。
振返 7	6　本時のふりかえり ・外国人が困らないように様々な活動をしていることが分かった。	・自分事として考え「困っている外国人に対して，自分たちも支援の手を差し伸べたり，優しく接したりすることができたらいいな」という感想があれば，紹介し広げる。

４　評価

豊田市の外国人住民が困ったり不安に感じていたりすることに対して，どのような外国人支援や交流活動を進めているか，資料を通して理解することができたか。

※「小４・６社会科　中３公民で使える豊田市の国際交流資料②」を使用

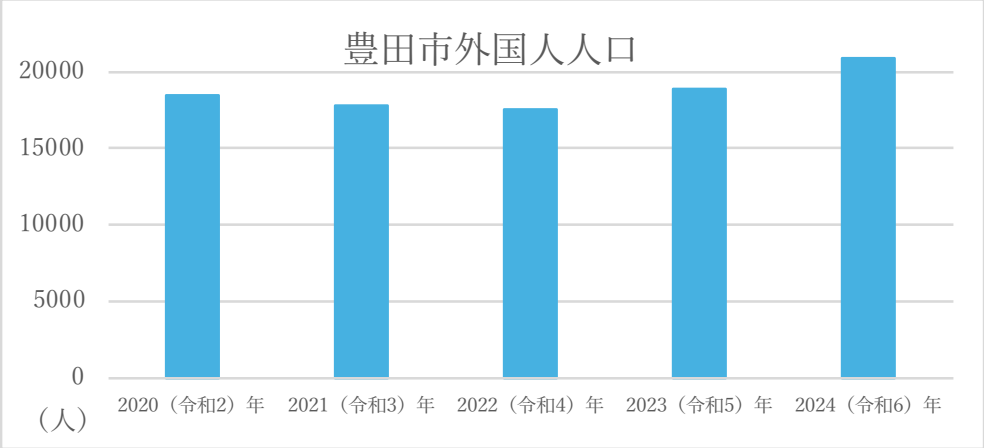
資料３

国際交流に取り組む豊田市の資料　①

＜団地内のごみ拾いウォーキングの様子＞

＜外国人の多い地区の夏祭り（自治区主催）＞

①　豊田市の外国人住民人口（各年５月１日現在　豊田市国際まちづくり推進課資料より）



2020（令和２）年	18,445 人
2021（令和３）年	17,775 人
2022（令和４）年	17,540 人
2023（令和５）年	18,891 人
2024（令和６）年	20,857 人

②　豊田市の外国人出身国別人数（令和６年５月１日現在　豊田市役所　資料より）

1	ブラジル	6,968 人
2	ベトナム	3,604 人
3	フィリピン	2,403 人
4	中国	2,210 人
5	インドネシア	1,178 人
6	韓国・朝鮮	966 人
7	ペルー	673 人
8	その他	2,855 人

③豊田市の小中学校における外国人児童生徒数　（豊田市教育国際化推進連絡協議会資料より）

【小学校】　　【中学校】

４４５人 ／ ２４３１２人　　９１６人 ／ １２１３７人

（豊田市小学校在籍児童数）　　（豊田市中学校在籍生徒数）

④現在の人口に占める外国人の割合（豊田市国際まちづくり推進課資料より）

5.02%

日本人人口：398,988 人　外国人人口：20,857 人（令和 6 年 5 月 1 日現在）

⑤豊田市と交流のある都市

■米国デトロイト市　City of Detroit　1960 年～

令和 5 年度の交流

・デトロイト市交換学生派遣事業

市内在住の高校生 8 名をデトロイト市に派遣し，デトロイト市長表敬を始め現地企業や日本国総領事館等への訪問，ホストファミリーとの交流を実施

■英国ダービーシャー　Derbyshire

（ダービーシャー県，ダービー特別市，南ダービーシャー市）　1998 年～

令和 5 年度の交流

・ダービーシャー高校生派遣事業

市内の高校または高等専門学校に通う生徒をダービーシャーのバートン・アンド・サウスダービーシャーカレッジに派遣。

・中学生海外派遣事業

・ダービーシャー姉妹都市提携 25 周年記念事業

姉妹都市提携 25 周年を記念し，豊田市ジュニアマーチングバンドをダービーシャーに派遣。市内各所で記念イベントを実施。

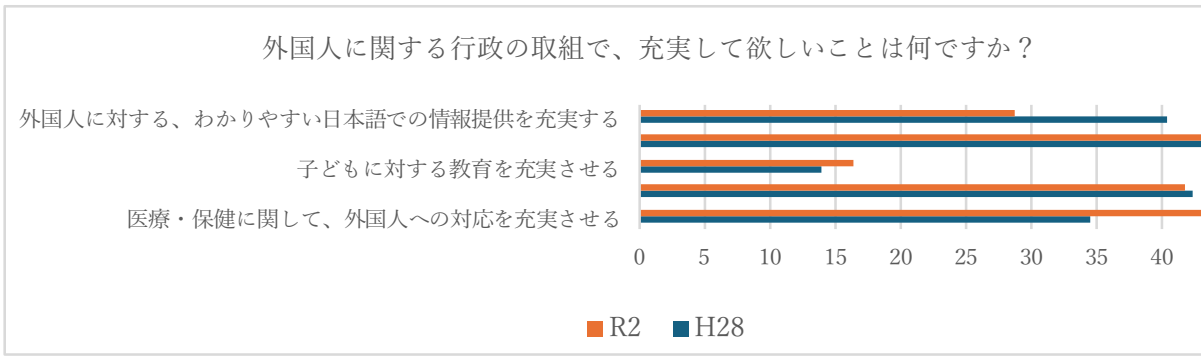
資料４

国際交流に取り組む豊田市の資料　②

＜自分の国を紹介するイベント（フランス）＞
（豊田市国際交流協会の催し）

＜外国人も多く訪れる市役所の様子＞

豊田市に住む外国人意識調査(外国人に関する行政の取組で，充実して欲しいことは何ですか?)



広報とよた複数言語版（左から中国語，英語，ポルトガル語）豊田市 HP より

＜翻訳サービスの様子＞

＜市役所の窓口の看板（様々な言語で表示）＞

＜ことばの教室（西保見小学校内）＞

日本に来たばかりの子が初期の日本語を学ぶ教室が豊田市内に４か所ある。

＜放課後学習支援事業（ゆめの木教室）＞

ボランティアの先生が、宿題や一人一人に必要な学習をていねいに教えている。６０名ほどの児童生徒が通っている。

＜「国際の日」の様子＞　「国のちがいを感じずに，人として接することができる場」をめざして行われている。（豊田市国際交流協会の催し）

外国人の住民が多い地域の方の話

私たちの地域では住民のごみ捨てルール向上のためにごみ拾いウォーキングをしています。また地域の中学校とアーティストの方とが共同で、ダストボックスを作っています。中学生がダストボックスに描くイラストの案を考え、アーティストの方の支援をえながら作りました。豊田市指定のごみ袋の色に合わせて、４色になっています。

ごみ拾いウォーキング後の集合写真

中学生デザインのダストボックス

国際まちづくり推進課の方の話

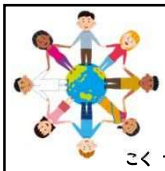
豊田市では日本語の力を活かして就職をめざす外国人のために「はたらくための日本語教室」を開いています。

また市役所に来る外国人に、英語、ポルトガル語、スペイン語の通訳職員が窓口で対応しています。中国語やタガログ語、ベトナム語など全 15 言語でオンライン通訳サービスを用いて対応もしています。

さらに外国人住民が地域の日本人と交流することができ、日常生活を営むために最低限必要な日本語を習得することができるような日本語教室も行っています。

資料５

５分でできる国際理解教育「やさしい日本語」



国際理解教育って何？

1

とつぜんですが…

外国人児童・生徒の気持ちを

考えてみましょう♪

2

Q１　なんと書いてあるでしょう？

காலை வணக்கம்

எப்படி இருக்கிறீங்க?

3

Answer

காலை வணக்கம்　　おはようございます。

எப்படி இருக்கிறீங்க?　　元気ですか？

これは、タミル語です。

読めましたか？？

4

実は、外国人児童・生徒は

いつもさっきのみんなと

同じ気持ちなのです…

5

では、どうしたらいいの

でしょう？

答えはかんたんです。

やさしい日本語を

使えばいいのです♡

6

Q２　やさしい日本語にしてください

例：出身　→　国

① 和室　→

② 保護者→

③ 給食　→

④ 欠席　→

⑤ 危険　→

7

Answerの例

① 和室　→　たたみのへや

② 保護者→　おうちのひと

③ 給食　→　学校で食べる昼ごはん

④ 欠席　→　学校をやすむ

⑤ 危険　→　あぶない

実は、どの答えでもOKです！
大切なのは、外国人の友達にわかってもらうことなのです！

8

Q３　やさしい日本語にしてください

例：こちらは、セール対象外です。
→これは、安くなりません。

①今週の水曜日は、校外学習へ行きます。
→

②大雨警報が出ています。
→

③来月は、授業参観があります。
→

9

Answerの例

①今週の水曜日は、校外学習へ行きます。
→〇日は、町探検に行きます。

外国人の友達がわかったら、
すべて正解です♪

②大雨警報が出ています。
→大雨なので、外に出ないでください。

③来月は、授業参観があります。
→〇月は、お父さんお母さんが学校に勉強を見に来るよ。

10

ふりかえり

できるだけ「やさしい日本語」で
話すことで
救われる子どもたち（保護者も）
がいるのです！！

11

ありがとうございました。

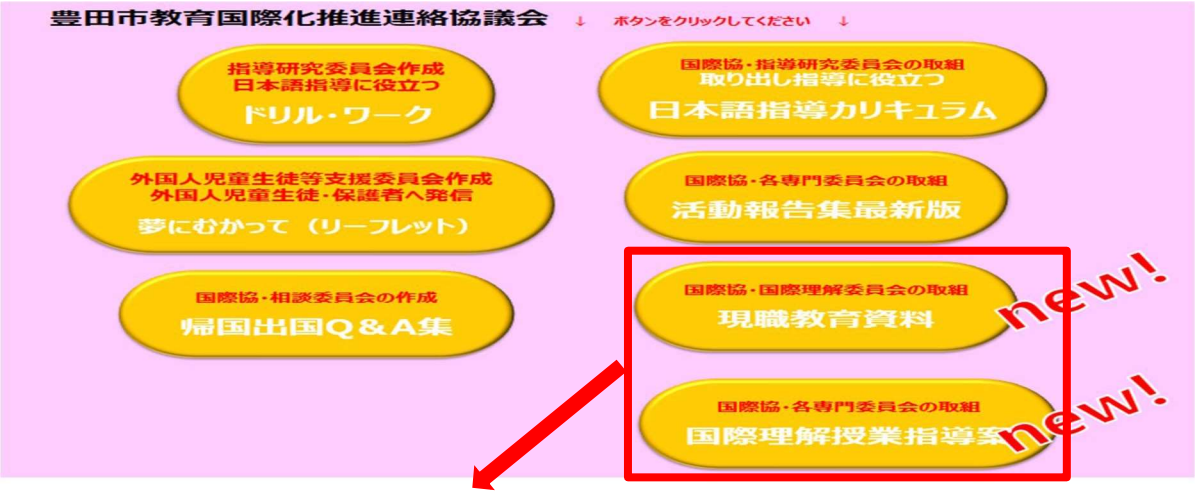
12

Ⅱ　教材・資料の活用のために

昨年度も教材・資料を作成したが，資料が共有フォルダ内のみでの提供であったため，実際に活用する学校は少なかった。より多くの学校や先生方に今回作成した学習指導案や学習資料，パワーポイント資料を使っていただけるよう，今後は POTETO 内を整理し、必要な資料がすぐに見つかるよう工夫をしていく。

POTETO 掲載場所

「外国人児童生徒等教育」をクリックして，「豊田市教育国際化推進連絡協議会」を開きます。



「現職教育資料」をクリックすると，８・９ページに掲載されている現職教育や授業でも活用できる「５分でできる国際理解教育パワーポイント資料」や昨年度作成した豊田市の外国人児童生徒等の実態が分かる教員用資料を取り出せます。

「国際理解授業指導案」をクリックすると P2 から P7 まで掲載されている社会科で使える指導案や豊田市の資料，昨年度作成した中学校道徳で行う国際理解教育の指導案やワークシートなどがあります。Word 形式なので，変更ができ，各学校の実態に合わせた授業が行うことができます。

本委員会で作成した様々な資料等が，各学校での指導の一助となれば幸いです。

5　研修委員会活動報告

Ⅰ　第１回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と今後の課題

Ⅱ　第２回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と今後の課題

Ⅲ　第３回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

1　研修会の概要

2　研修会の内容

3　成果と今後の課題

Ⅰ　第１回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

１　研修会の概要

（１）日　時　令和６年６月１１日（火）
（２）場　所　豊田市教職員会館
（３）内　容　全体研修（講義）　グループ別研修（ワークショップ型）
（４）参加者
　　小学校　３７名　　中学校　１８名　　その他　３名

２　研修会の内容

（１）全体研修（講義）
「外国人児童生徒等教育の現状・
　　特別の教育課程による日本語指導について」
　　豊田市教育委員会　学校教育課　渡邉　温嫁　指導主事
「豊田市教育国際化推進連絡協議会（ユニットアシスト制）」
　　豊田市立保見中学校　校長　佐藤　正一先生

ア　佐藤正一先生の講義内容
　令和４年度から，各専門委員会と学校が連携するための基盤作りとしてユニットアシスト制が導入されている。しかし，制度は整っていてもなかなか有効活用できていない現状があったため，今年度は，ユニットを見直し，加配校である中学校７校小学校 17 校を，集住共生ユニットとし，A～D の４つの研修ブロックに再編成した。各ブロックに研修ブロックリーダーを設けて，研修などの情報発信やブロックごとのさらなるつながりを強化していく。
　近年，外国人児童生徒等への教育の必要性が問われている。日本で暮らしていれば，いずれ話す聞く力は育つが，読み書きの力は学習しないと伸びない。親の都合で日本に来た場合も多く，子どもの意思で日本に来たわけではない。外国人児童生徒等を「困った子」として捉えるのではなく，「困っている子」として捉え直し，教育の力で外国にルーツをもつ子どもたちを働いて稼げる人間に育てていく必要がある。

イ　参加者の声（振り返りシートより）
・外国人児童生徒等が増えている中で，誰一人取り残さない教育を行うために，外国人児童生徒等教育を充実させることはとても重要であ

る。
・子どもの実態把握（家庭環境・学習経験・言語の力）の大切さを知るとともに，日本語で各教科の学習ができる能力を身につけさせる必要があると感じた。
・専門委員会と学校が連携するための基盤としてユニットアシスト制を推進してくことは，とても良いことである。
・外国人児童生徒等の指導をする上で，各学校との横の連携や専門委員会とのつながりを深くしていくことが，大きな効果を発揮すると思う。

（２）グループ別研修（ワークショップ型）

ア　研修内容

A～D の研修ブロックに分かれ，新ユニットアシスト制についての共通理解を図り，実際にタブレットを用いて Teams での相談方法等を確認した。また，各グループで日頃感じている疑問や困り感を共有し，今後学びたいことなどの情報収集を行った。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・Teams を使って，今後，グループの先生方と指導・運営等の相談や，情報を共有し合っていけるので心強いと感じた。
・散在受入ユニットの学校は，外国人児童生徒等が少ないので，今までの指導資料も少なく，日本語指導の経験がある教員も少ないため，ユニットアシスト制を利用し，Teams で気軽に相談できるシステムは，とても良い試みだと思った。
・国際理解教育について，他校の実践を聞くことができ，とても勉強になった。せっかくつながることができたので，分からないことを聞き合ったり，良い教材を教え合ったりしていきたい。

３　成果と今後の課題

今回の佐藤正一先生の講義を聞けたことは，参加者にとって，外国人児童生徒等を指導した経験の有無にかかわらず，外国人児童生徒等教育の必要性やユニットアシスト制の意義を再確認できる良い機会となった。明日からの外国人児童生徒等への指導に意欲をもてたという声も多くあった。また，グループ別研修では，各ブロックで，同じような状況にある先生同士が悩みを相談したり，研修ブロックリーダーからの有益な情報を共有したりして，つながりを実感できる有意義な時間となった。

今後，このユニットアシスト制をさらに発展させるためには，日頃から継続的に情報を発信することや，本研修会に参加できなかった先生方にも周知して各学校内での体制づくりや意識改革を進めていく必要がある。

Ⅱ　第２回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

１　研修会の概要

（１）日　時　　令和６年８月２０日（火）
（２）場　所　　豊田市青少年センター　交流室
（３）内　容　　全体研修（講義）
（４）参加者　　小学校３７名　　中学校１６名　　その他１４名

２　研修会の内容

（１）「多様な子どもが輝ける学校づくりについて」

大阪大学大学院　准教授　櫻井　千穂　氏

ア　講義内容

外国につながる子どもの教育の基本は，日本のルールを身につけさせることや，「日本語で読み書きできるようさせなければ」と漢字をひたすら書いたり，文型を覚えさせたりするなどではない。ことばの発達は豊かな体験から生まれる。「聞く」→「話す」の自然習得が基本となる。日本語ができない子と思い込み「コミュニケーションがとれない」と思わず，「日本語も〇〇語もできる可能性のある子ども」として見ることが大切である。

＜講義をされる櫻井千穂先生＞

子どもたちが今，何を考えているのかを捉えて支援する「トランスランゲージング教育」という視点で全てのことばの力を生かすことが大切である。実際の子どもとの対話から「ことばの教育の参照枠」を用いて，子どもの能力を思考・判断・表現を支える包括的なことばの力の発達を捉える軸と日本語固有の知識・技能・様態の習得の二つの軸で子どもの頭の中を覗いてみる支援をする。

また，実際の対話を聞いて，子どものステージを参加者と考えるワークを行った。「日本語固有の知識・技能・様態の習得軸」と「思考・判断・表現を支える包括的なことばの力」の二つを何歳の年齢枠であるか，参加者のグループワークで交換した意見とともに，思考ステージと日本語ステージを考え，「すべての子どもがもっているすべての力をささえて伸ばしていく」ことを確認した。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・トランスランゲージ教育で，すべてのことばの力を活かすためのスタンス，デザイン，シフトの重要性が勉強になった。後半のワークで，

児童生徒の動画からその児童生徒がどの段階なのかを考えることで，その児童生徒に合った支援をすることが大切であることもよく分かった。

・新しい日本語能力の評価方法を実践してみて，ステージを考えることの難しさを改めて感じた。しかし，その生徒が目指す姿の指標として視覚化できて分かりやすく，ただなんとなく取り出し指導するのではなく，目指す目標があるだけでも何を支援すべきかが見えてくる。
・目の前の子どもがもっているすべての力を支えて，のばす。これをするための大人にとって，「ことばの教育の参照枠」は安心して見守るポイントとなる視点であると思った。
・支援をしながら，どの価値観や指針に従えば良いのか不安になることがある。しかし，今回，自分は子ども達の「生きていく上の安心」「わかる・できるを増やす」そのためにいると確信した。
・「読む」に関して，思考・判断・表現を支える包括的なことばの力の発達をみる視点について，実際の子どもの動画から考えてとても勉強になった。
・日本語ステージと思考ステージの表での可視化は，何を伸ばす支援をすると良いかが分かりやすかった。
・表面的な日本語の会話だけで，子どもの学力や思考等を決めつけることは絶対にいけないことだと思い，日本語も〇〇語もできる子として自信をもたせたい。

3　成果と今後の課題

櫻井先生の講義の中で，「コミュニケーションをとろうと思ったら，どんな方法でもあるじゃないですか？それができないなら赤ちゃんの子育てなんか絶対できないですよね」という言葉に，参加者の多くが声を出しながら頷いた。

資料を用いた的確な説明の中に，実際の子どもとの対話から学ぶことで，今後，授業や取り出し指導・支援ですぐに活用できる良い機会となった。

また，豊田市は増加し続ける外国にルーツのある児童生徒への対応が急務といえる。システムの構築も進めつつ，現場の教員・学校日本語指導員が目の前の子どもに適切に使用できる教材やワークシートの共有や DLA の結果を生かした指導・支援のフローチャートなど整備など，切実に願う声が振り返りからも伺えた。

今後，この研修会を通して得たものを各学校へ広めていきたい。

Ⅲ　第３回豊田市外国人児童生徒等指導者研修会

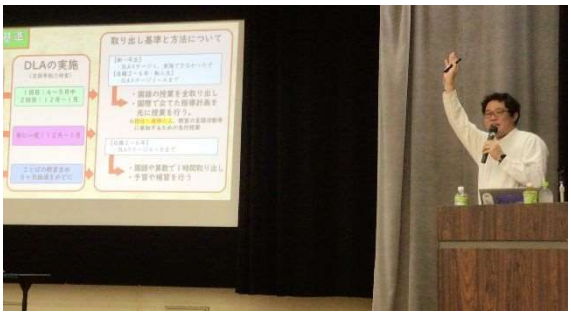
１　研修会の概要

（１）　日　時　令和６年１１月２６日（火）
（２）　場　所　豊田市教職員会館
（３）　内　容　全体研修（講義）　ブロック別研修・情報交換
（４）　参加者
　　小学校　３８名　　中学校　１３名

２　研修会の内容

（１）全体研修（講義）
「大林小の国際全部見せます（増量版）」
豊田市立大林小学校　教諭　小野　高明　先生

ア　小野高明先生の講義内容



大林小学校の国際教室で実践されていることを，「大林小の外国人児童等の実態や国際教室の目標」，「国際関係の年間スケジュール」，「国際教室の授業・学習支援」，「国際教室の環境」，「Teams を使った情報共有」に分けて，お話をされた。参加者は，自校の取組と比較しながら聞くことで，明日からできることや来年度から取り入れたいことを考える機会となった。

また，１０月に行ったオンライン研修の際に出た質問に回答していただいたことで，理解をさらに深めることができた。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・具体的な支援の方法，日常のスケジュール，全ての国語の授業を取り出す指導のメリットなど，多くのことが参考になった。
・大林小の国際教室の目標と実践を具体的に紹介していただき，大変参考になった。「できる わかる おもしろい」を感じられる授業を目指す，あらゆる支援を行っている。また，日本語指導担当教員が担任に積極的に話しかけて，子どものために必要な情報を共有されていて，とても勉強になった。
・大林小の学校全体の国際年間計画を知ることができてよかった。このような会に教務主任が出席し，組織として体制をつくっていくことが大切であると思った。
・１０月のオンライン研修だけでは理解しきれなかった小野先生の講話が，もう一度聞かせていただくことで整理しながら聞きとることがで

き，理解が深まった。Q & A が加わったことで，他の学校の先生方の困り感が自分と同じであることを知り，現場の共通の問題であることも分かった。

（２）ブロック別研修・情報交換

ア　研修内容

A～D の研修ブロックに分かれ，以下のテーマについて話し合い，情報交換を行った。

A　「国際教室との連携と教育のユニバーサル化」
B　「小中連携　～安心して中学校生活をスタートするために～」
C　「小中間での情報共有や連携でできること，これから望むこと」
D　「読書プログラムをやってみよう」

ブロック A からブロック C は，各学校の実態や困り感などを共有したり，参考になる取組を知ったりすることができ，有意義な研修となった。

ブロック D は，読書プログラムを体験した。間違えて読んだところを否定せずに受け入れたり，楽しみながら読み進めたりすることができ，読書プログラムのよさを実感することができた。

イ　参加者の声（振り返りシートより）

・取り出し対象児童の決定，更新などについて小学校の情報を知ることができてよかった。今後，取り出しの対象については，ある程度共通の基準があるといい。
・小学校 6 年生時の DLA の結果があると，よりスムーズにスタートをきることができると感じた。
・その子の将来のことを見据え，必要な支援ができるように，子どもやその保護者の情報を早めに，小中で共通理解できるようにすることの必要性を感じた。
・読書プログラムは，どの児童にもできそうであり，有効な学習であると感じた。

３　成果と今後の課題

１０月のオンライン研修に続き，第 3 回の研修でも大林小学校の取組を伝えることで，「自校でも取り入れていきたい」と前向きな姿勢を見せる先生が多かった。また，日頃から各校での取組を Teams で配信していることによって，昨年度以上につながりを感じることができた。今後もユニットアシスト制をさらに発展させ，各学校内での体制づくりや意識改革を進めていく必要がある。